

千葉市貝殻畑遺跡

—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2018

2018

プラス興産株式会社
千葉市教育委員会
株式会社 ノガミ

ち　　ば　　し　　かい　　がら　　ばたけ　　い　　せき

千葉市貝殻畠遺跡

—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2018

プラス興産株式会社
千葉市教育委員会
株式会社 ノガミ

例 言

- 1 本書は、千葉市花見川区武石町一丁目89番14に所在する貝殻畠遺跡の宅地造成に伴う調査報告書である。
- 2 調査は千葉市教育委員会が主体者となってを行い、プラス興産株式会社の委託を受けた株式会社ノガミがこれを支援した。
- 3 出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。
- 4 発掘調査の期間は2018(平成30)年7月2日～8月7日(本調査)で、調査面積は610m²である。

調査担当者は千葉市埋蔵文化財調査センター松田光太郎、調査員は株式会社ノガミ長谷川秀久である。

- 5 整理期間は2018(平成30)年8月8日～12月15日である
- 6 本書の執筆は第1章調査に至る経緯を松田光太郎(千葉市埋蔵文化財調査センター)が、その他を高尾将矢(株式会社ノガミ)が行った。
- 7 発掘調査から報告書刊行まで、下記の機関に御指導・御協力を賜った。RACRO合同会社

凡 例

- 1 本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。
- 2 土層及び遺物の色調は、農林水産省監修「新版標準土色帖」による。
- 3 本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。遺構実測図:1/60・1/30 遺物実測図:土器1/4・1/3・1/2 土製品:1/2 石器:1/2 鉄器:1/2
- 4 竪穴住居跡の平面規模は、カマドを通る軸線(長軸)とこれに直交する軸線(短軸)との長さを示す。柱穴は4本の主柱穴をカマド右側のものをP1とし、時計回りの順に番号をつけた。出入り口用ピットは、P5とした。
- 5 遺構・遺物の図面はAdobe Systems社製Adobe Illustratorで編集作業を行った。
- 6 遺構平面図の柱痕跡は柱の当たりが明瞭に確認できたもののみトーンで示した。
- 7 遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影し、AdobeSystems社製Adobe Photoshopで編集作業を行った。

- 8 第2図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図より作成したものである。
- 9 本文中の遺構の略称は以下のとおりである。
竪穴住居跡:SI、掘立柱建物跡:SB、溝:SD、土坑:SK、ピット:P、性格不明遺構:SX
- 10 遺構図面、土層説明中の略称は以下のとおりである。カクラン:K、ロームブロック:rb、ローム粒:rr、焼土ブロック:sb、焼土粒:sr、炭化物ブロック:tb、炭化物粒:tr、黒褐色土ブロック:kkb、黒褐色土粒:kkr、暗褐色土ブロック:akb、暗褐色土粒:akr

硬化面 -----

焼土

柱痕跡

須恵器

赤彩

目 次

例言・凡例	-----	-----
目次	-----	-----
第1章 序論	-----	-----
1 調査に至る経緯	1	5
2 遺跡の位置及び周辺遺跡	5	12
3 基本層序	5	20
第2章 検出された遺構・遺物	-----	-----
1 竪穴住居跡	-----	5
2 掘立柱建物跡	-----	12
3 溝	-----	20
4 土坑	-----	20
5 ピット	-----	21
6 性格不明遺構	-----	21

7 遺構外出土遺物	21	写真図版
まとめ	21	抄録
参考文献		奥付

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧表	2	第5表 出土遺物観察表1	33
第2表 ピット一覧表	31	第6表 出土遺物観察表2	34
第3表 挖立柱建物跡ピット一覧表1	31	第7表 出土遺物観察表3	35
第4表 挖立柱建物跡ピット一覧表2	32	第8表 出土遺物観察表4	36

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図	1	第13図 4・5号掘立柱建物跡	16
第2図 周辺遺跡位置図	2	第14図 5・6号掘立柱建物跡	17
第3図 遺構配置図	3	第15図 7・8号掘立柱建物跡	18
第4図 基本層序	5	第16図 9・10号掘立柱建物跡	19
第5図 1号竪穴住居跡1	7	第17図 1～6号溝	23
第6図 1号竪穴住居跡2	8	第18図 1～7号土坑	24
第7図 2号竪穴住居跡	9	第19図 1・2号性格不明遺構	25
第8図 3号竪穴住居跡1	10	第20図 遺物実測図1	26
第9図 3号竪穴住居跡2	11	第21図 遺物実測図2	27
第10図 4・6号竪穴住居跡	12	第22図 遺物実測図3	28
第11図 5号竪穴住居跡	13	第23図 遺物実測図4	29
第12図 1～3号掘立柱建物跡	15	第24図 遺物実測図5	30

写真図版目次

写真図版1	写真図版3	SB07 完掘
調査区全景	SIO3 断面	SD01,02 完掘
調査区近景	SIO3 遺物出土状況	SD01,02 断面
写真図版2	SIO3 カマド断面	SD06 完掘
テストピット断面	SIO4 遺物出土状況・完掘	SK02 断面
SIO1 完掘	SIO5 完掘	P36 遺物出土状況
SIO1 断面	SIO5 カマド断面	写真図版5
SIO1 カマド完掘	SIO6 遺物出土状況・完掘	出土遺物
SIO1 カマド断面	SB01,02,03 完掘	写真図版6
SIO2 完掘	写真図版4	出土遺物
SIO2 断面	SIO4 完掘	写真図版7
SIO3 完掘	SB05,06 完掘	出土遺物

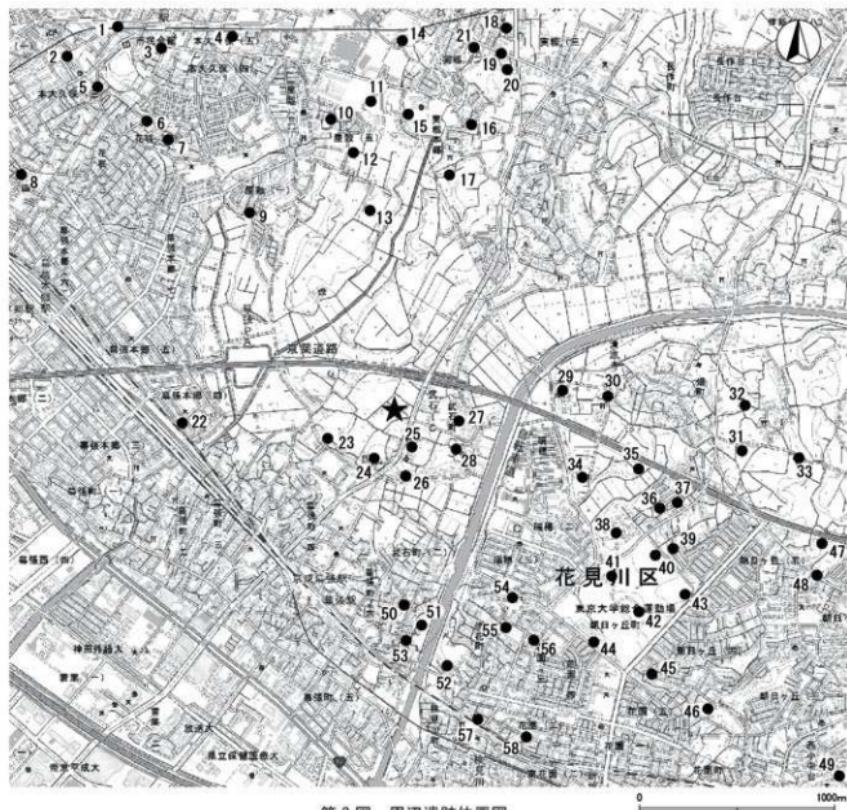
第1章 序論

1 調査に至る経緯

平成30年3月20日付けでプラス興産株式会社（以下「事業者」という。）から、宅地造成を計画している千葉市花見川区武石町一丁目89番14他（面積2,910.31m²）について、「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出され、4月17日に千葉市埋蔵文化財調査センターが試掘を実施した結果、竪穴住居跡が検出された。試掘結果を事業者に伝え、協議した結果、発掘調査が避けられないことが判明したため、平成30年4月18日、30千教理セ第11号にて、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。その後4月19日、事業者より発掘調査（確認調査）の依頼文が提出され、4月25日付け千教理セ第39号にて千葉県教育委員会教育長宛て報告し、5月16日～23日の日程で千葉市埋蔵文化財調査センターが確認調査を実施した。確認調査では奈良・平安時代の竪穴住居跡10軒等が検出され、5月24日付け30千教理セ第84号にて、総面積のうち1,858m²が本調査対象範囲として継続協議が必要の旨を事業者宛て通知した。再度協議の結果、住宅建設部分は保護層が確保できるが、道路部分は十分な保護層を確保することができないことが判明したため、工事により埋蔵文化財に影響が及ぶ道路部分610mについて記録保存のための本調査を実施することになった。6月26日付け30千教理セ第138号により千葉県教育委員会教育長宛て埋蔵文化財発掘の報告を行い、事業者の委託を受けた株式会社ノガミの支援のもと、千葉市教育委員会が主体者となり、7月2日から8月7日まで発掘調査を実施した。



第1図 調査区位置図



第2図 周辺遺跡位置図

1:25000

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
★	日體御造跡	15	実鶴本郷遺跡	30	子安古墳群	45	中田谷遺跡
1	大久保駒塚遺跡	16	実鶴裏山遺跡	31	宮脇裏山跡	46	鬼山遺跡
2	本大久保2丁目遺跡	17	実科城跡	32	陣屋遺跡	47	杉前見遺跡
3	本大久保4丁目遺跡	18	実鶴2丁目駒前遺跡	33	陣屋台古墳群	48	冥輪遺跡
4	本大久保5丁目遺跡	19	実鶴2丁目廻船跡	34	苗末台遺跡	49	高込西貝塚
5	花輪新田台遺跡	20	実鶴3丁目遺跡	35	植野遺跡	50	愛宕山遺跡
6	若崎台遺跡	21	蕨巳台遺跡	36	御林遺跡	51	大久保駒塚
7	花輪貝塚	22	上ノ台遺跡	37	鶴付遺跡	52	大久保貝塚
8	鶴沼台4丁目遺跡	23	稚崎遺跡	38	殿山遺跡	53	馬加遺跡
9	雁巣1丁目遺跡	24	三代内貝塚	39	上駒牧遺跡	54	岩塚台遺跡
10	雁巣貝塚	25	武石貝塚	40	中鶴牧遺跡	55	南道遺跡
11	雁巣東遺跡	26	大小冢貝塚古墳群	41	落合遺跡	56	横塚遺跡
12	雁巣南遺跡	27	稚崎越遺跡	42	中谷遺跡	57	瓜塚貝塚
13	清水作遺跡	28	寺台遺跡	43	鶴牧遺跡	58	瓜塚北遺跡
14	実鶴2丁目西遺跡	29	宮脇遺跡	44	立山遺跡		

Y=20640

X=36810



Y=20650

X=36820

X=36830

X=36840

X=36850

Y=20660

Y=20670

Y=20680



第3図 選構配置図

0
1:150
5m

2 遺跡の位置及び周辺遺跡

千葉市は房総半島西部に位置し、その大半は比較的平坦な下総台地と帶状に発達した沖積低地に占められる。本遺跡は千葉市西部を流れる花見川西岸の標高約20mの台地上に位置する。周辺の遺跡としては同台地上に縄文時代の遺跡である椎崎遺跡(23)、古墳時代後期の遺跡である三代内貝塚(24)、縄文・弥生・平安時代の遺跡である武石貝塚(25)、古墳時代の遺跡である大小塚貝塚古墳群(26)、古墳・平安・中世の遺跡である権現越遺跡(27)、寺台遺跡(28)が存在する。また同台地南部の花見川によって形成された沖積低地には古墳時代の遺跡である愛宕山遺跡(50)、中世の遺跡である大久保遺跡(51)、古墳時代の遺跡である馬加遺跡(53)が存在する。

3 基本層序

調査区南部、SI03の東側にテストピットを設定し、基本土層(第4図)の観察を行った。遺構確認面はⅠ層上面である。



第2章 検出された遺構と遺物

今回の調査では竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡10棟、溝6条、土坑7基、ビット103基、性格不明遺構2基が検出された。構築時期は出土遺物等から奈良～平安時代と考えられる。墨書き器がSI01から17点、SI02から3点、SI03から11点、SI05から2点、SD06から1点、P08から1点、P17から1点、P36から2点、P51から1点、P73から1点が出土した。刻書き器がSI01から1点、SI03から3点、P63から1点、SBO9P2から1点が出土している。掘立柱建物跡を構成しない個別のビットについては計測値第2表のみの掲載とした。各遺構の位置は第3図に示した。

1 竪穴住居跡

6棟が調査区中央部から南部に掛けて検出された。遺物実測図は第20～23図に遺物の詳細は第5～7表に示した。

1号竪穴住居跡（第5・6図）

一部調査区外に展開するがほぼ全面が検出された。平面は方形を呈する。主軸方向はN-8°-Eである。支柱穴4本と出入口用柱穴1本と壁溝が検出された。壁溝はカマドの左右を除き全周する。カマドは北壁に構築している。床面はほぼ平坦であり、部分的に硬化面が確認された。壁は東西壁が外傾して立ち上がり、南壁はほぼ垂直に立ち上がる。SD4と重複しこれを切る。規模は長軸636cm、短軸642cm、深さ48cm、P1長さ79cm、

深さ61cm、P2長さ56cm、深さ76cm、P3長さ59cm、深さ53cm、P4長さ80cm、深さ67cm、P5長さ51cm、深さ28cm、壁溝深さ22cmである。遺物は18点を図示した。時期は出土遺物から9世紀前葉と考えられる。

2号竪穴住居跡（第7図）

遺構は調査区外に展開するため全容は不明である。平面は方形を呈すると考えられる。主軸方向はN-2°-Wである。主柱穴2本と壁溝が検出された。壁溝は検出範囲で全周する。床面はほぼ平坦であり、部分的に硬化面が確認された。カマドは北壁に構築している。規模は長軸262cm、短軸470cm、深さ43cm、P1長さ68cm、深さ31cm、P2長さ63cm、深さ25cm、壁溝深さ13cmである。遺物は5点を図示した。時期は出土遺物から9世紀前葉と考えられる。

3号竪穴住居跡（第8・9図）

一部調査区外に展開するがほぼ全面が検出された。平面は方形を呈すると考えられる。主軸方向はN-67°-Eである。主柱穴4本と出入口用柱穴1本、壁溝が検出された。カマドは西壁に構築している。床面はほぼ平坦であり、部分的に硬化面と焼土、炭化材が確認された。炭化材が少ないとから、廃棄に伴い建築部材を抜き取ったのちに、意図的に焼却された焼失住居と推定される。壁はやや外傾し立ち上がる。規模は長軸504cm、短軸473cm、深さ62cm、P1長さ67cm、深さ50cm、P2長さ67cm、深さ53cm、P3長さ63cm、深さ51cm、P4長さ57cm、深さ51cm、壁溝深さ7cmである。遺物は19点を図示した。時期は出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

4号竪穴住居跡（第10図）

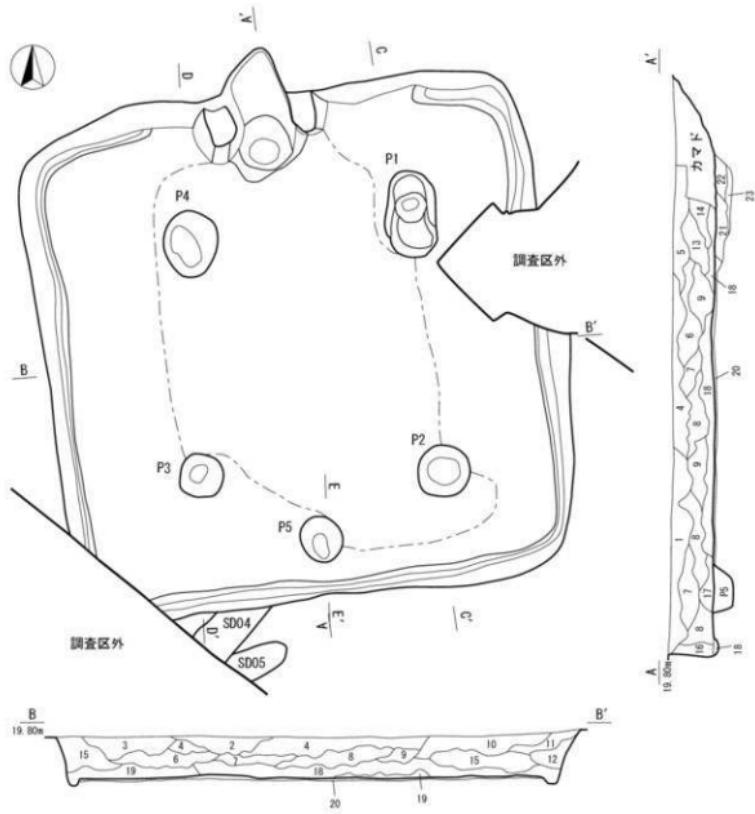
平面は方形を呈する。南西隅のみ検出された。遺構の大半は調査区外に展開するため全容は不明である。壁溝は検出範囲で全周する。床面はほぼ平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。規模は長軸224cm、短軸279cm、壁溝深さ12cmである。遺物は1点を図示した。

5号竪穴住居跡（第11図）

一部調査区外に展開するがほぼ全面が検出された。平面は方形を呈する。主軸方向はN-74°-Eである。主柱穴3本と出入口用柱穴1本と壁溝が検出された。カマドは西壁に構築している。床面はほぼ平坦であり、部分的に硬化面が確認された。壁はやや外傾し立ち上がる。SI06と重複しこれを切る。規模は長軸414cm、短軸379cm、P1長さ56cm、深さ44cm、P2長さ41cm、深さ49cm、P3長さ42cm、深さ53cm、P4長さ34cm、深さ17cm、壁溝深さ6cmである。遺物は7点を図示した。時期は9世紀中葉と考えられる。

6号竪穴住居跡（第10図）

平面は方形を呈する。主軸方向はN-65°-Wである。土坑が1基検出された。床面はほぼ平坦であり、部分的に硬化面が確認された。壁は緩やかに立ち上がる。SI05と重複しこれに切られる。壁溝は検出されなかった。規模は長軸319cm、短軸353cm、深さ11cm、SI06 SK1は長さ57cm、深さ17cmである。遺物は2点を図示した。時期は出土遺物から8世紀後葉と考えられる。

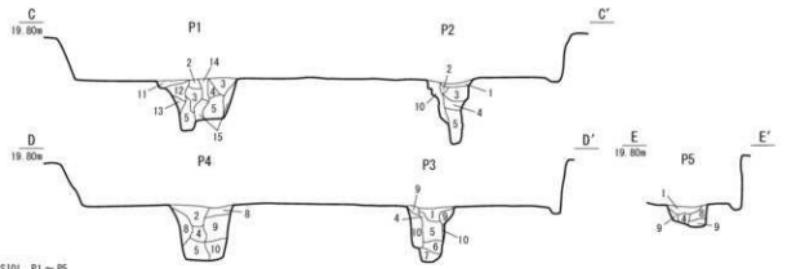


土壤説明

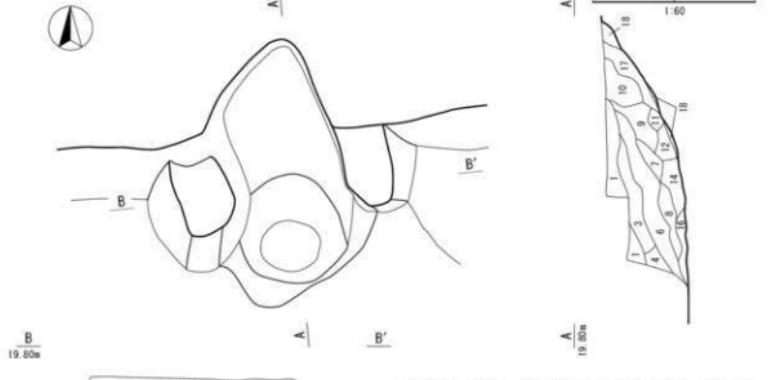
501

- 1 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 rr 多量、or、tr 烟量含む。
- 2 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr (φ 1 ~ 15 mm)、rr、sh (φ 1 ~ 10 mm)、nr、khh (φ 5 ~ 10 mm) 微量含む。
- 3 塗褐色土層 107R1/4 粘性-砂心有 し、まわり心有 rr (φ 1 ~ 15 mm)、rr 多量、sh (φ 1 ~ 10 mm)、nr 少量、shh (φ 5 ~ 10 mm) 微量、細砂粒多量含む。
- 4 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 中量、or、tr 烟量含む。
- 5 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量、khh (φ 5 ~ 15 mm) 極微量含む。
- 6 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量、khh (φ 5 ~ 20 mm) 微量含む。
- 7 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr (φ 1 ~ 15 mm)、rr 中量、nr、khh (φ 5 ~ 10 mm) 少量含む。
- 8 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr (φ 1 ~ 15 mm)、rr 中量、nr、khh (φ 5 ~ 10 mm) 少量含む。
- 9 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr (φ 1 ~ 15 mm)、rr 中量、nr、khh (φ 5 ~ 10 mm) 少量含む。
- 10 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr (φ 1 ~ 10 mm)、rr 中量、sh (φ 1 ~ 10 mm)、nr 極微量、khh (φ 5 ~ 15 mm) 少量含む。
- 11 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量、khh (φ 3 ~ 20 mm) 少量含む。
- 12 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr (φ 1 ~ 10 mm)、rr 多量、or 微量含む。
- 13 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr (φ 1 ~ 15 mm)、rr 細砂粒多量、nr、th (φ 3 ~ 10 mm) 微量、khh (φ 3 ~ 10 mm) 極微量含む。
- 14 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量、khh (φ 3 ~ 10 mm) 少量含む。
- 15 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr (φ 1 ~ 10 mm)、rr 細砂粒多量、nr、th (φ 3 ~ 10 mm) 微量、khh (φ 3 ~ 10 mm) 極微量含む。
- 16 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量、khh (φ 5 ~ 15 mm) 少量含む。
- 17 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量含む。
- 18 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量含む。
- 19 黒褐色土層 107R2/3 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量含む。
- 20 塗褐色土層 107R1/4 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量含む。
- 21 塗褐色土層 107R1/4 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量含む。
- 22 塗褐色土層 107R1/4 粘性-砂心有 し、まわり心や有 rr 多量、or 微量含む。

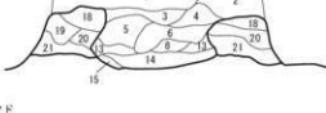
第5図 1号竖穴住居跡 1



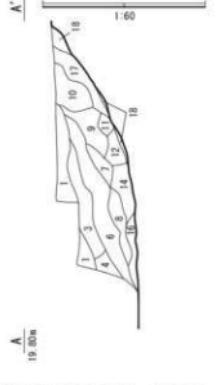
S101	P1 ~ P5	1 黒褐色土層 10YR2/3	粘性や少有。しまりや少有 rr 多量, sr 少量, khh (φ 5 ~ 10 mm) 多量含む。
2	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr (φ 1 ~ 20 mm), rr, khh (φ 10 ~ 20 mm) 多量, sr, tr 細砂含む。	
3	黒褐色土層 10YR2/3	粘性や少有。しまりや少有 rr (φ 1 ~ 15 mm), rr 多量, sr, tr 細砂含む。	
4	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr 多量, khh (φ 5 ~ 15 mm) 多量含む。	
5	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr 多量, khh (φ 5 ~ 20 mm) 多量含む。	
6	黒褐色土層 10YR2/3	粘性や少有。しまりや少有 rr 多量, khh 中量含む。	
7	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr 多量, khh (φ 5 ~ 10 mm) 中量含む。	
8	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまり有 rr (φ 1 ~ 10 mm), rr, sr 多量, sr 少量含む。	



A 0 2m
B 1.60

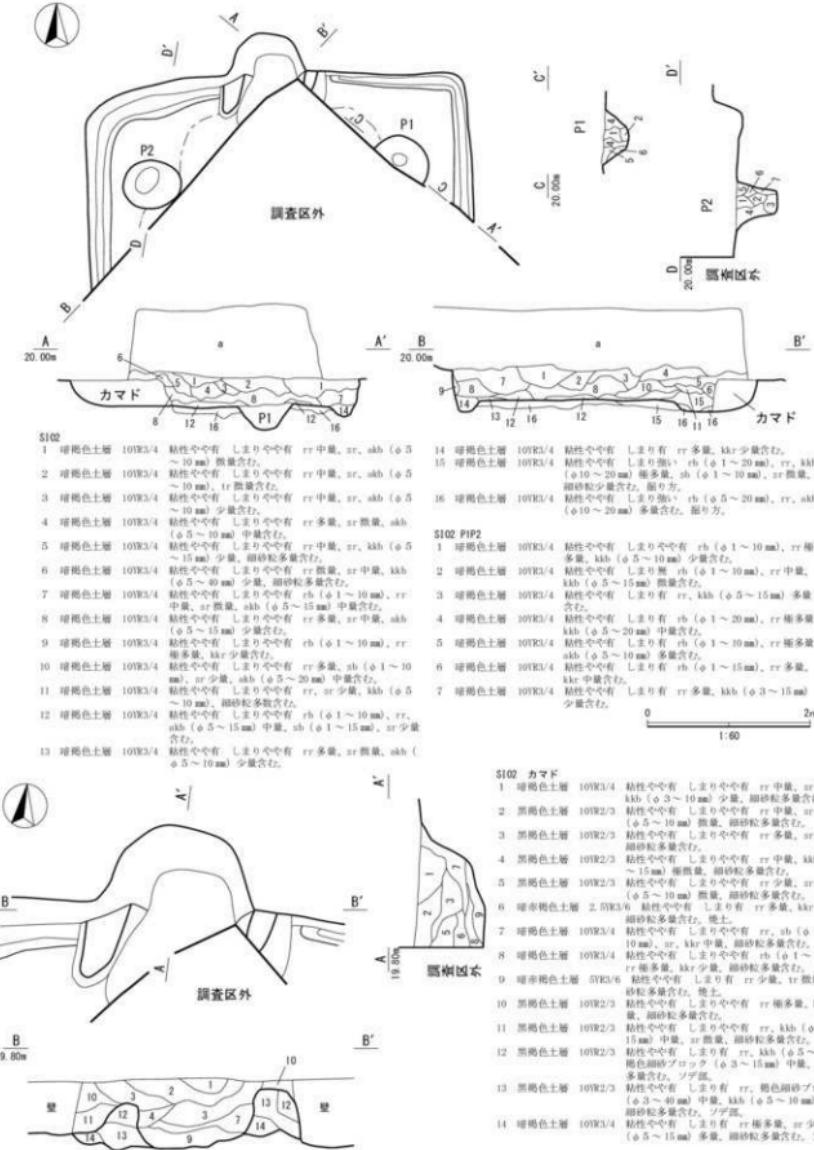


S101 カマド	1 暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr 多量, sr 少量, khh, 細砂粒多量含む。
2	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr, 暗褐色細砂粒中量, 細砂粒多量含む。
3	暗褐色土層 10YR2/4	粘性や少有。しまりや少有 rr, 固液混色細砂ブロック (φ 10 ~ 30 mm) 多量, sr, rr 少量含む。
4	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr, khh, 細砂粒多量, sr, rr 少量含む。
5	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr 中量, sr 少量, rr 少量含む。
6	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr 中量, sr 少量, 細砂粒多量含む。
7	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr 中量, sr 少量, tr, khh (φ 3 ~ 10 mm) 少量, 細砂粒多量含む。
8	黒褐色土層 10YR3/2	粘性や少有。しまり無 rr 多量, sr 中量, khh 少量, 細砂粒多量含む。
9	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr, sr (φ 1 ~ 40 mm), sr 中量, tr 少量, rr 少量, 細砂粒多量含む。
10	暗褐色土層 10YR3/4	粘性や少有。しまりや少有 rr, khh 中量, sr (φ 1 ~ 20 mm), sr 少量, 細砂粒多量含む。

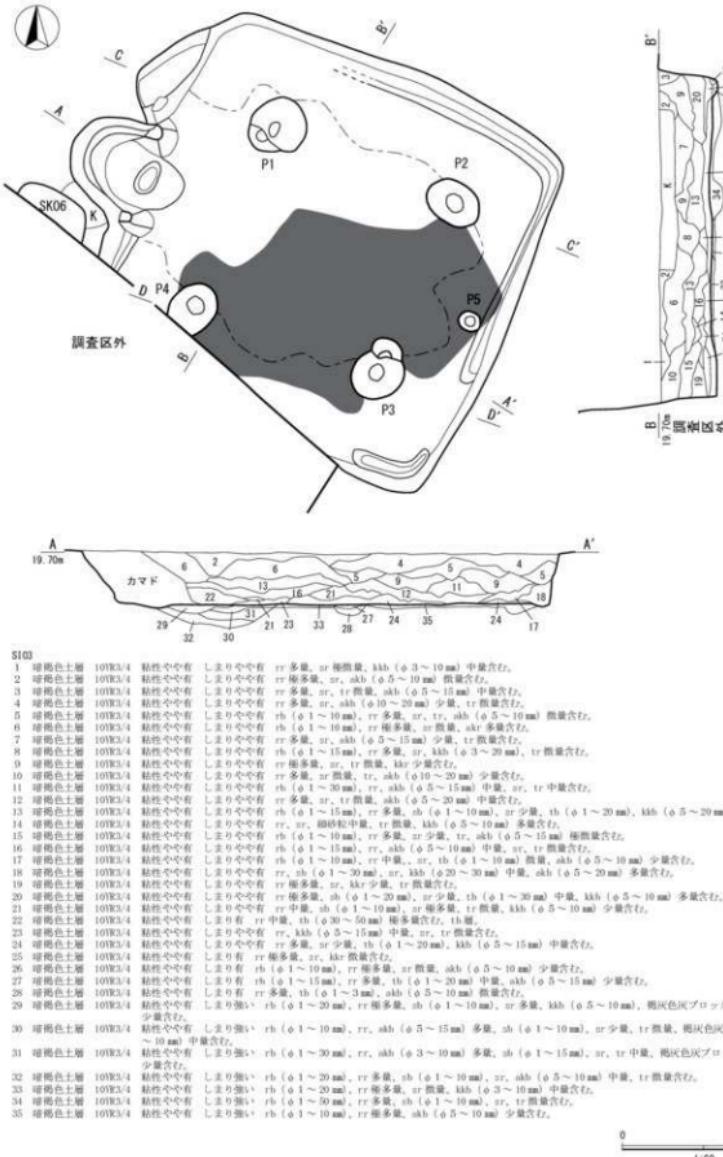


A 0 2m
B 1.60

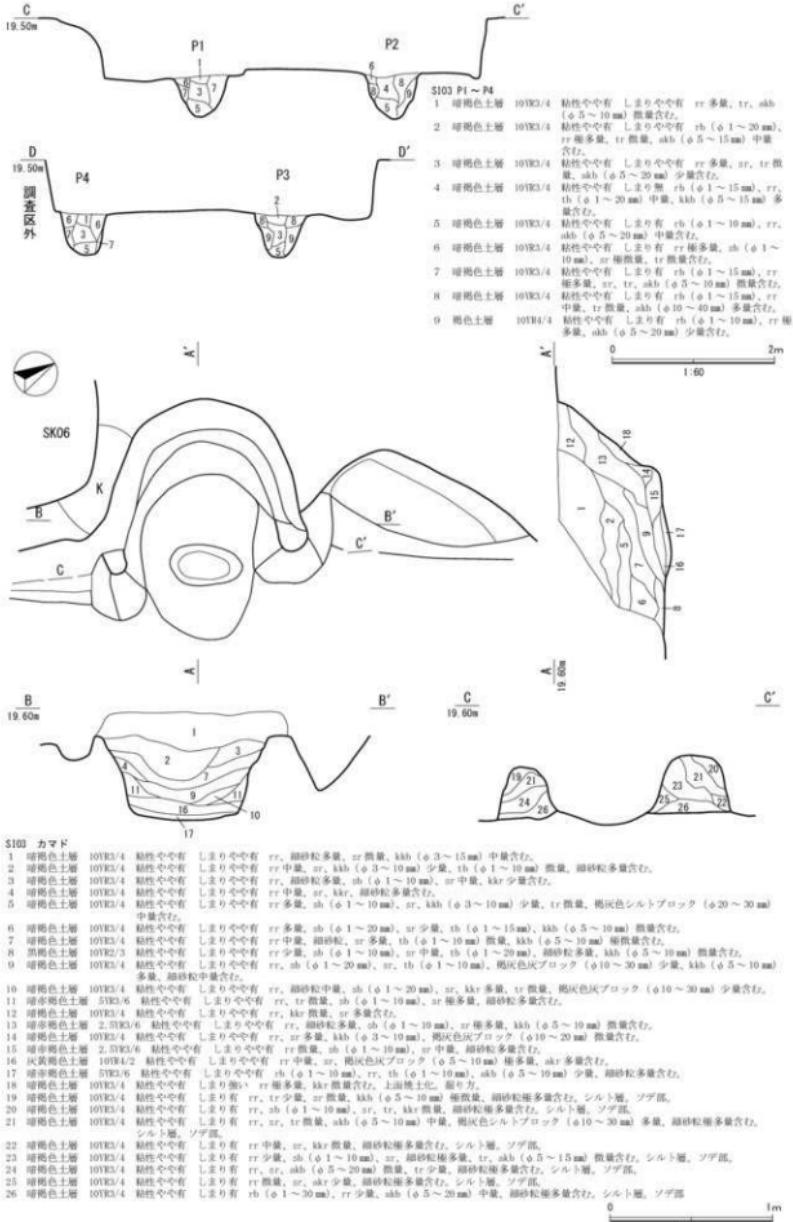
第 6 図 1号竪穴住居跡 2



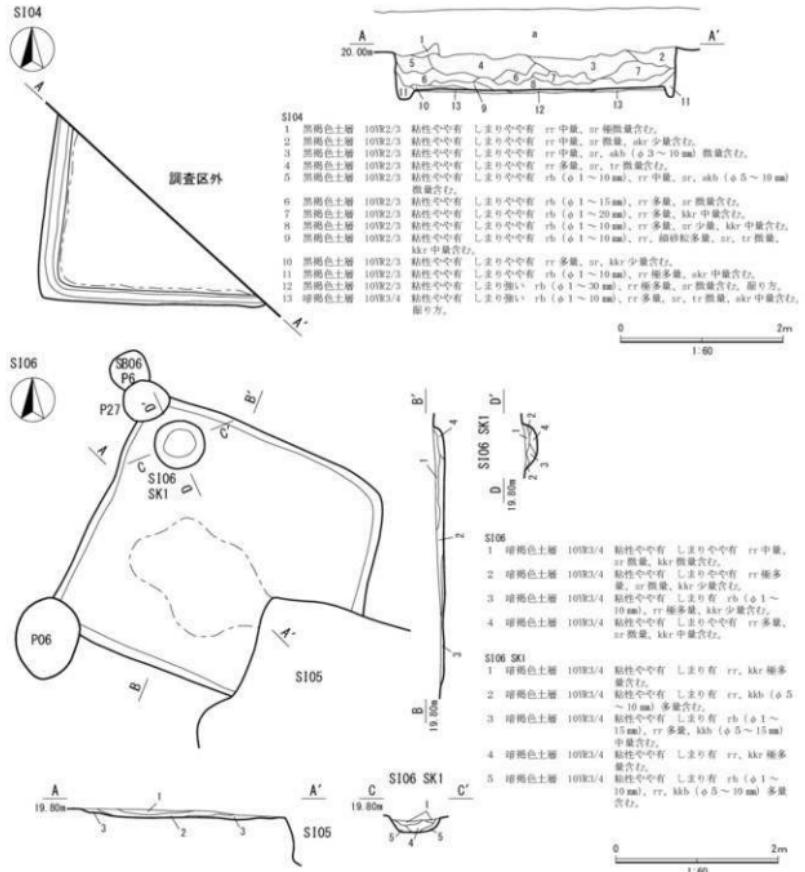
第7図 2号竖穴住居跡



第8図 3号穴住居跡1



第9図 3号竪穴住居跡2



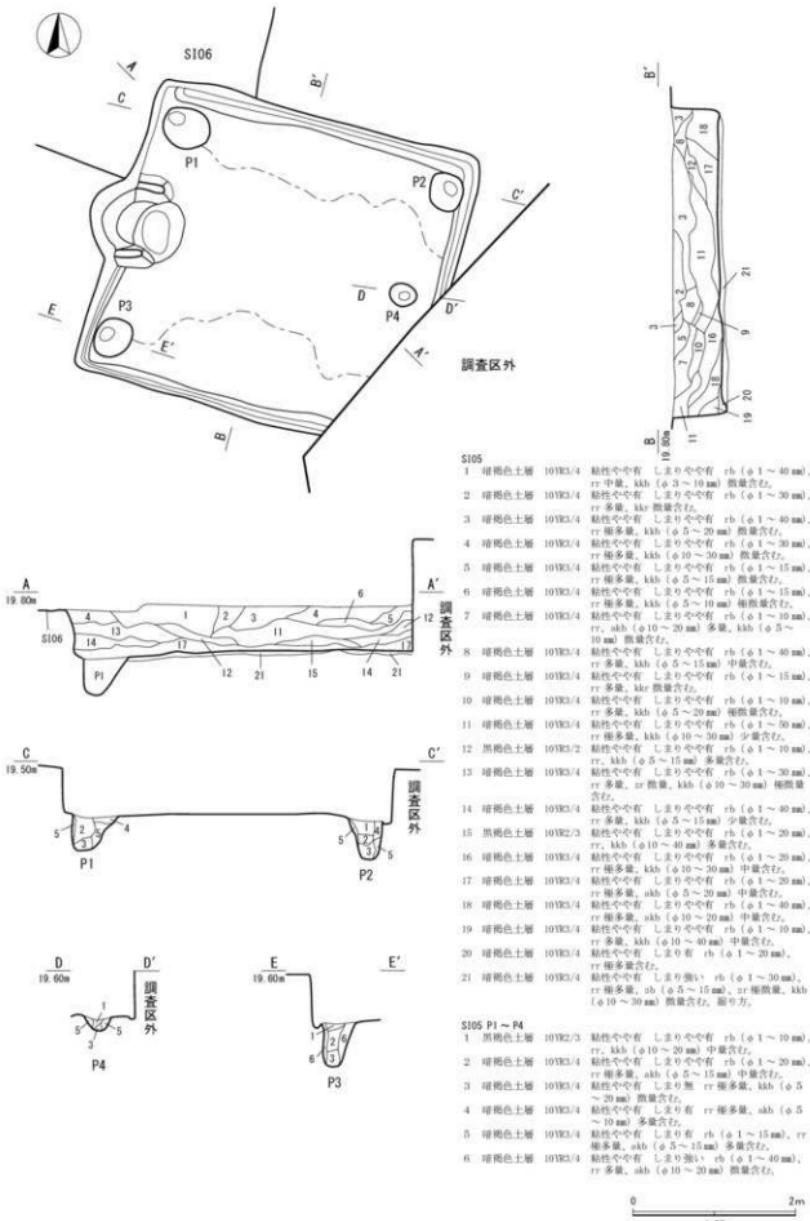
第10図 4・6号竪穴住居跡

2 挖立柱建物跡

掘立柱建物跡10棟が検出された。ほとんどの掘立柱建物跡では柱痕跡が明瞭に確認された。また10棟以外にも掘立柱建物跡を構成すると考えられる大小のピットが検出された。今回検出された掘立柱建物跡の多くは調査区外に展開するため全容が不明なものが多い。各ピットの計測値は第3・4表に遺物実測図は第23図に遺物の詳細は第7表に示した。

1号掘立柱建物跡（第12図）

東西方向1間、南北方向3間の側柱建物である。P5がSB02、P2と重複しこれに切られる。規模は、東西方向184cm、南北方向528cmである。主軸方位は南北方向でN-10°-Wである。柱間寸法は芯々で南北方向166~189cm、東西方向184cmである。



第 11 図 5号竪穴住居跡

2号掘立柱建物跡（第12図）

東西方向2間、南北方向2間の側柱建物である。P2がSB01、P5と重複しこれを切る、P4がSB03、P3と重複しこれに切られる。規模は、東西方向355cm、南北方向362cmである。主軸方位は南北方向でN-4°-Wである。柱間寸法は、芯々で東西方向169～185cm、南北方向177～186cmである。

3号掘立柱建物跡（第12図）

東西方向1間、南北方向2間の総柱建物である。P3がSB02、P4と重複しこれを切る。規模は、東西方向165cm、南北方向398cmである。主軸方位は南北方向でN-9°-Wである。柱間寸法は、芯々で東西方向165cm、南北方向178～218cmである。

4号掘立柱建物跡（第13図）

東西方向2間、南北方向2間の側柱建物である。SB08と重複する。規模は、東西方向382cm、南北方向410cmである。主軸方位は南北方向でN-12°-Wである。柱間寸法は、芯々で東西方向184～194cm、南北方向183～221cmである。

5号掘立柱建物跡（第13・14図）

東西方向3間、南北方向3間の側柱建物である。規模は、東西方向552cm、南北方向672cmである。主軸方位は南北方向でN-2°-Eである。柱間寸法は、芯々で東西方向165～194cm、南北方向213～241cmである。

6号掘立柱建物跡（第14図）

東西方向2間、南北方向3間の側柱建物である。SB05、SB09と重複する。規模は、東西方向422cm、南北方向692cmである。主軸方位は南北方向でN-90°-Eである。柱間寸法は、芯々で東西方向207～213cm、南北方向221～241cmである。

7号掘立柱建物跡（第15図）

東西方向2間、南北方向2間の側柱建物である。柱筋により柱穴数にばらつきが見られる。規模は、東西方向369cm、南北方向402cmである。主軸方位は南北方向でN-3°-Wである。柱間寸法は、芯々で東西方向76～185cm、南北方向183～212cmである。

8号掘立柱建物跡（第15図）

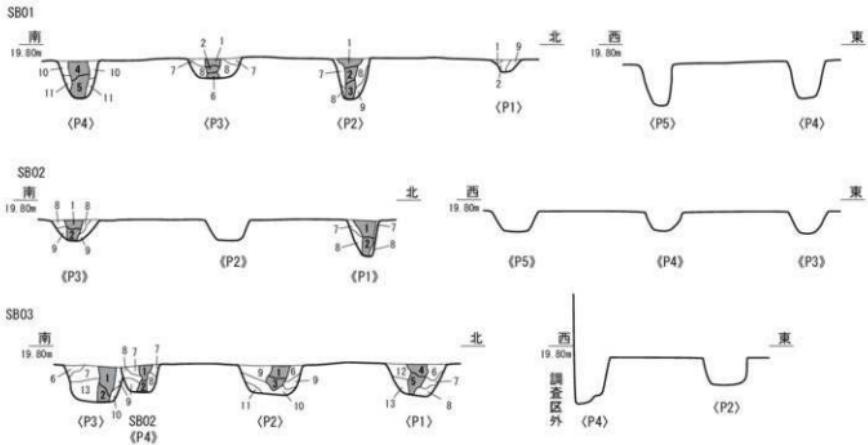
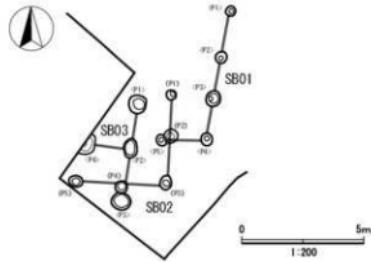
東西方向2間、南北方向3間の側柱建物である。SB04と重複する。規模は、東西方向377cm、南北方向534cmである。主軸方位は南北方向でN-0°-Eである。柱間寸法は、芯々で東西方向170～238cm、南北方向106～192cmである。

9号掘立柱建物跡（第16図）

東西方向4間、南北方向3間の側柱建物である。P5がSB10、P1と重複しこれに切られる。規模は、東西方向927cm、南北方向588cmである。主軸方位は南北方向でN-2°-Eである。柱間寸法は、芯々で東西方向168～298cm、南北方向166～218cmである。

10号掘立柱建物跡（第16図）

東西方向2間、南北方向2間の総柱建物である。P1がSB09、P5と重複しこれを切る。規模は、東西方向376cm、南北方向384cmである。主軸方位は南北方向でN-4°-Wである。柱間寸法は、芯々で東西方向161～210cm、南北方向176～212cmである。



SB01・SB02

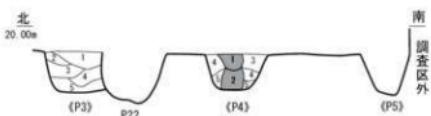
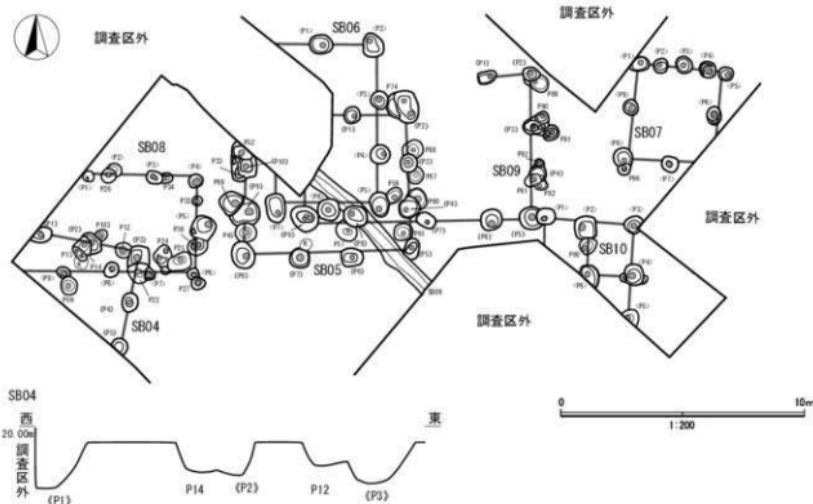
- 1 黒褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまりやや有 rr 中量, kkh (δ 5 ~ 15 mm) 少量含む。
- 2 黒褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまりやや有 rr 中量, rr 微量, kkh (δ 3 ~ 5 mm) 略量含む。
- 3 黒褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまりややや有 rr, kkh (δ 10 ~ 15 mm) 少量, rr 略量含む。
- 4 黒褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまりややや有 rr (δ 1 ~ 20 mm), rr 多量, kkh (δ 10 ~ 30 mm) 中量含む。
- 5 黑褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまりややや有 rr (δ 1 ~ 15 mm), rr 多量, kkh (δ 5 ~ 10 mm) 少量含む。
- 6 黑褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまりややや有 rr, kkh (δ 3 ~ 10 mm) 多量含む。
- 7 黑褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 15 mm), rr, kkh (δ 3 ~ 10 mm) 多量含む。
- 8 黑褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまり有 rr 多量, rr 微量含む。
- 9 黑褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 10 mm), rr 多量, kkh (δ 3 ~ 5 mm) 中量含む。
- 10 黑褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 20 mm), rr 多量, kkh (δ 5 ~ 10 mm) 少量含む。
- 11 黑褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 30 mm), rr 多量, kkh (δ 3 ~ 15 mm) 中量含む。

SB03

- 1 黒褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまりやや有 rr, akh (δ 3 ~ 5 mm) 中量含む。
- 2 黒褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまりやや有 rr (δ 1 ~ 10 mm), rr, akh (δ 5 ~ 10 mm) 中量含む。
- 3 黒褐色土層 10R2/3 粘性や少々有 しまり有 rr 多量, kkh (δ 10 ~ 20 mm) 多量含む。
- 4 單褐色土層 10R3/4 粘性や少々有 しまりややや有 rr (δ 1 ~ 10 mm), rr 中量, akh (δ 10 ~ 20 mm) 少量含む。
- 5 單褐色土層 10R3/4 粘性や少々有 しまりやや有 rr (δ 1 ~ 10 mm), rr 少量, akh (δ 5 ~ 10 mm) 多量含む。
- 6 單褐色土層 10R3/4 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 20 mm), rr, akh (δ 10 ~ 20 mm) 少量含む。
- 7 單褐色土層 10R3/4 粘性や少々有 しまり有 rr, kkh (δ 3 ~ 10 mm) 多量, akh (δ 3 ~ 5 mm) 中量含む。
- 8 單褐色土層 10R3/4 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 30 mm), rr 多量, kkh (δ 10 ~ 20 mm) 中量含む。
- 9 單褐色土層 10R3/4 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 10 mm), rr 多量, akh (δ 5 ~ 10 mm) 多量含む。
- 10 單褐色土層 10R3/4 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 30 mm), rr, akh (δ 5 ~ 15 mm) 多量含む。
- 11 單褐色土層 10R3/4 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 20 mm), rr, akh (δ 10 ~ 20 mm) 中量含む。
- 12 單褐色土層 10R3/4 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 20 mm), rr, akh (δ 10 ~ 20 mm) 中量含む。
- 13 單褐色土層 10R3/4 粘性や少々有 しまり有 rr (δ 1 ~ 10 mm), rr, akh (δ 5 ~ 10 mm) 多量含む。

0 2m
1.60

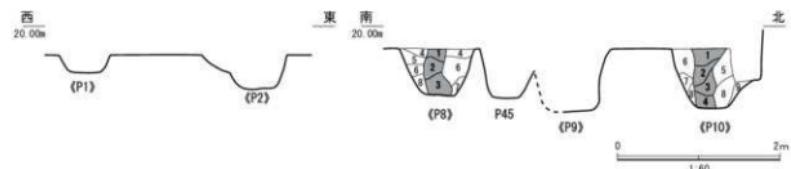
第12図 1~3号掘立柱建物跡



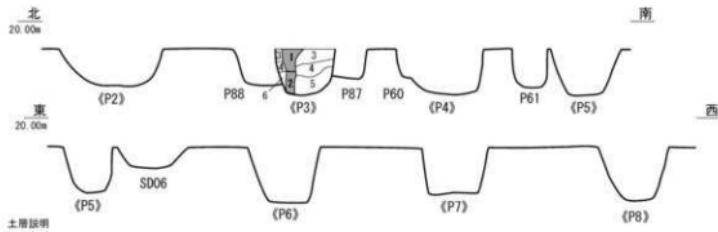
土層説明
SB04 (P3)
1 塗褐色土層 10YR2/4 粘性少少有 しまり有 rr中量, kkh ($\phi 5 \sim 20mm$)
多量含む。
2 塗褐色土層 10YR2/4 粘性少少有 しまり有 rr ($\phi 1 \sim 20mm$)、rr極多量, kkh ($\phi 5 \sim 10mm$) 中量含む。
3 塗褐色土層 10YR3/4 粘性少少有 しまり有 rr ($\phi 1 \sim 15mm$)、rr多量, kkh ($\phi 3 \sim 10mm$) 中量含む。
4 塗褐色土層 10YR3/4 粘性少少有 しまり有 rr ($\phi 1 \sim 20mm$)、rr極多量, kkh ($\phi 5 \sim 15mm$) 中量含む。
5 塗褐色土層 10YR3/4 粘性少少有 しまり有 rr ($\phi 1 \sim 20mm$)、rr, kkh ($\phi 5 \sim 15mm$) 多量含む。

土層説明
SB04 (P4)
1 塗褐色土層 10YR3/4 粘性少少有 しまり少少有 rr中量, kkh ($\phi 10 \sim 20mm$)
少量含む。
2 塗褐色土層 10YR3/4 粘性少少有 しまりや少有 rr, kkh ($\phi 5 \sim 15mm$)
中量含む。
3 塗褐色土層 10YR3/4 粘性少少有 しまり有 rr多量, kkh ($\phi 10 \sim 20mm$)
少量含む。
4 塗褐色土層 10YR3/4 粘性少少有 しまり有 rr ($\phi 1 \sim 20mm$)、rr中量, kkh ($\phi 5 \sim 10mm$) 少量含む。
5 塗褐色土層 10YR3/4 粘性少少有 しまり有 rr多量, kkh ($\phi 10 \sim 30mm$)
少量含む。

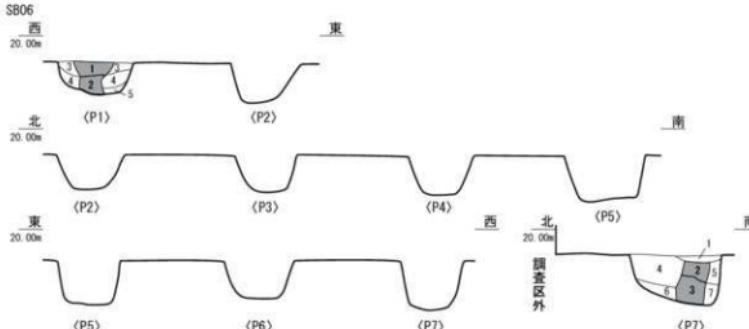
SB05



第 13 図 4・5 号掘立柱建物跡



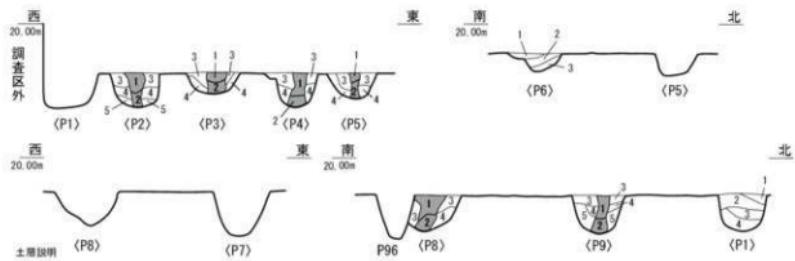
	SB05 (P1)	SB05 (P10)
1 黒褐色土層	10YR2/3 粘性やや有 しまりやや有 rr, kkh ($\phi 10\sim20mm$) 中量含む。	1 喀褐色土層 10YR3/4 粘性やや有 しまりやや有 rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr, akb ($\phi 10\sim20mm$) 多量含む。
2 喀褐色土層	10YR2/3 粘性やや有 しまりやや有 rr ($\phi 1\sim10mm$) , rr, kkb ($\phi 10\sim20mm$) 中量含む。	2 喀褐色土層 10YR3/4 粘性やや有 しまりやや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr 多量, akb ($\phi 10\sim20mm$) 中量含む, kkh ($\phi 5\sim10mm$) 少量含む。
3 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりやや有 rr ($\phi 1\sim10mm$) , rr, kkh ($\phi 10\sim30mm$) 多量含む。	3 喀褐色土層 10YR3/4 粘性やや有 しまりやや有 rb ($\phi 1\sim15mm$) , rr 多量, akb ($\phi 5\sim15mm$) 多量, kkh ($\phi 10\sim20mm$) 中量含む。
4 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr多量, akb ($\phi 10\sim20mm$) , kkh ($\phi 20\sim30mm$) 中量含む。	4 喀褐色土層 10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr 多量, akb ($\phi 5\sim15mm$) , kkh ($\phi 10\sim20mm$) 中量含む。
5 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rr ($\phi 1\sim30mm$) , rr極量含む。	5 喀褐色土層 10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr 多量, akb ($\phi 20\sim30mm$) 中量含む。
6 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr, kkh ($\phi 5\sim15mm$) 多量含む。	6 喀褐色土層 10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr 多量, akb ($\phi 20\sim30mm$) 中量含む。
SB05 (P8)		7 喀褐色土層 10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim30mm$) , rr 多量含む。
1 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr 中量, akb ($\phi 10\sim20mm$) 多量含む。	8 喀褐色土層 10YR2/3 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr 多量, kkb ($\phi 20\sim30mm$) 中量含む。
2 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr 中量, akb ($\phi 10\sim20mm$) 多量含む。	9 喀褐色土層 10YR2/3 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim15mm$) , rr 多量, kkb ($\phi 10\sim20mm$) 中量含む。
3 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim15mm$) , rr 中量, kkb ($\phi 20\sim30mm$) 多量含む。	
4 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr 中量, akb ($\phi 5\sim15mm$) 多量含む。	
5 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rr ($\phi 1\sim15mm$) , rr極量含む。	
6 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr 多量含む。	
7 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr 多量, kkb ($\phi 5\sim10mm$) 中量含む。	
8 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr 多量, kkb ($\phi 10\sim20mm$) 少量含む。	



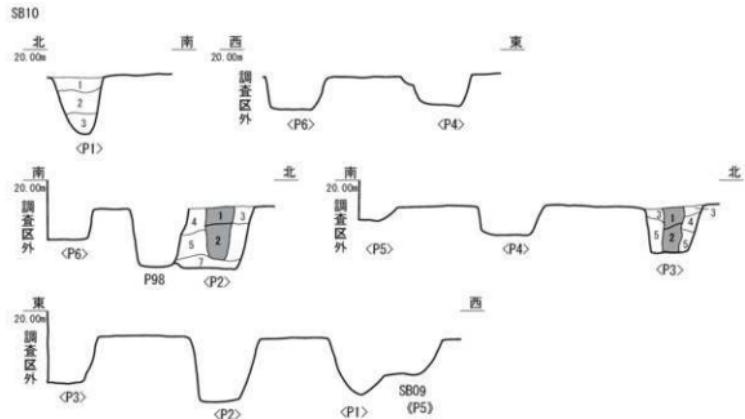
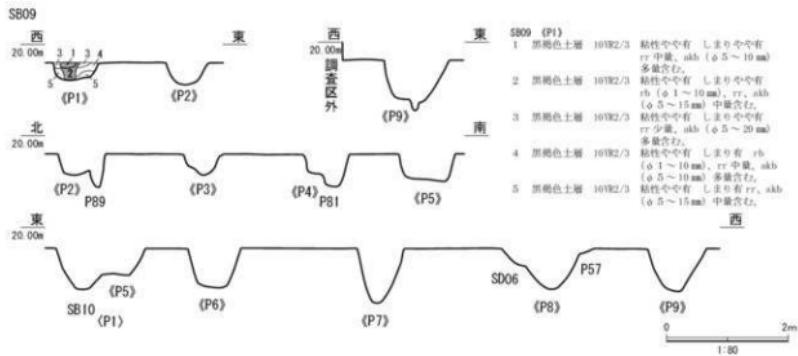
	SB06 (P1)	SB06 (P7)
1 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりやや有 rr, akb ($\phi 10\sim20mm$) 多量含む。	1 黒褐色土層 10YR2/3 粘性やや有 しまり有 rr 中量, kkh ($\phi 5\sim20mm$) 少量含む。
2 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりやや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr 多量, akb ($\phi 20\sim40mm$) 多量含む。	2 黒褐色土層 10YR2/3 粘性やや有 しまりやや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr, kkb ($\phi 5\sim20mm$) 中量含む。
3 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりやや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr 多量, kkb ($\phi 5\sim10mm$) 多量含む。	3 黒褐色土層 10YR2/3 粘性やや有 しまりやや有 rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr 中量, kkb ($\phi 20\sim30mm$) 多量含む。
4 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rr ($\phi 1\sim30mm$) , rr極量含む, akb ($\phi 5\sim20mm$) 多量含む。	4 喀褐色土層 10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr 多量, kkb ($\phi 20\sim30mm$) 多量, kkh ($\phi 10\sim30mm$) 少量含む。
5 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr 多量含む。	5 喀褐色土層 10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim30mm$) , rr, kkb ($\phi 20\sim30mm$) 多量, akb ($\phi 10\sim20mm$) 多量含む。
SB06 (P4)		6 黒色土層 10YR4/4 粘性やや有 しまり強い rb ($\phi 1\sim10mm$) , rr 多量, kkb ($\phi 10\sim20mm$) 少量, kkh ($\phi 10\sim15mm$) 极量含む。
7 喀褐色土層	10YR3/4 粘性やや有 しまりや有 rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr 中量, kkb ($\phi 10\sim20mm$) 多量含む。	7 喀褐色土層 10YR3/4 粘性やや有 しまり強い rb ($\phi 1\sim20mm$) , rr 中量, kkb ($\phi 10\sim20mm$) 多量含む。

第 14 図 5・6 号掘立柱建物跡





第 15 図 7・8号掘立柱建物跡



- SB10 (P2)
- 1 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり少々有 rr (φ 1 ~ 20 mm), rr 中量, akb (φ 10 ~ 30 mm) 多量含む。
 - 2 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり無 rr (φ 1 ~ 10 mm), rr, akb (φ 10 ~ 40 mm) 多量含む。
 - 3 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり有 rr (φ 1 ~ 40 mm), rr 多量, akb (φ 10 ~ 30 mm) 多量含む。
 - 4 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり有 rr 中量, akb (φ 10 ~ 20 mm) 多量含む。
 - 5 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり有 rr (φ 1 ~ 20 mm), rr, akb (φ 10 ~ 20 mm) 多量含む。
 - 6 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり強い rr (φ 1 ~ 30 mm), rr 多量, akb (φ 10 ~ 20 mm) 多量含む。
 - 7 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり有 rr (φ 1 ~ 40 mm), rr 多量, akb (φ 10 ~ 30 mm) 多量含む。

- SB10 (P3)
- 1 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり少々有 rr, kkb (φ 10 ~ 20 mm) 中量含む。
 - 2 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり少々有 rr (φ 1 ~ 10 mm), rr, kkb (φ 20 ~ 30 mm) 中量含む。
 - 3 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり有 rr, kkb (φ 10 ~ 20 mm) 多量含む。
 - 4 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり有 rr 多量, kkb (φ 10 ~ 30 mm) 多量含む。
 - 5 黑褐色土層 10TR2/3 粘性少々有 しまり有 rr (φ 1 ~ 15 mm), rr 多量, kkb (φ 5 ~ 20 mm) 中量含む。

第 16 図 9・10 号掘立柱建物跡

3 溝

溝は6条が検出された。SD01～SD05は調査区南東部で縦まって検出された。SD06は調査区北部に位置する。全ての溝が調査区外に展開するため全容は不明である。遺物実測図は第24図に遺物の詳細は第7表に示した。

1号溝（第17図）

北東南西方向に直線状に延び、断面形は半円状を呈する。SD02と重複しこれに切られる。規模は長さ591cm、幅78cm、深さ33cmである。

2号溝（第17図）

北東南西方向に直線状に延び、断面形は半円状を呈する。SD01、03と重複しこれを切る。規模は長さ606cm、幅136cm、深さ37cmである。2層中からは貝が出土した。貝の内訳はハマグリ82枚、821g（潮間帯下部から水深20mの内湾の砂泥底）、シオフキ141枚、672g（潮間帯下部から水深20mの砂泥底）、アサリ256枚、1372g（潮間帯中部～水深10mの砂礫泥底）、ツメタガイ1枚、2.7g（潮間帯から水深50mの細砂底）、不明41枚、40.2gである。

3号溝（第17図）

北東南西方向に直線状に延び、断面形は半円状を呈する。SD01、03と重複しこれに切られる。規模は長さ91cm、幅49cm、深さ55cmである。

4号溝（第17図）

北東南西方向に直線状に延び、断面形は半円状を呈する。SI01、SD04、05と重複しSI01に切られ、SD04、05を切る。規模は長さ73cm、幅46cm、深さ36cmである。

5号溝（第17図）

北東南西方向に直線状に延び、断面形は半円状を呈する。SD04と重複しこれに切られる。規模は長さ65cm、幅7cm、深さ17cmである。

6号溝（第17図）

北西南東方向に延び、断面形は半円状を呈する。北東南西方向に直線状に延びる。SB06P6、SB09P8と重複しこれに切られる。規模は長さ631cm、幅69cm、深さ42cmである。遺物は1点を図示した。

4 土坑

1号土坑（第18図）

調査区外に展開するため、全容は不明である。平面は方形、断面は箱状を呈する。底面はほぼ平坦で壁はやや外傾し立ち上がる。規模は長軸144cm、短軸63cm、深さ60cmである。

2号土坑（第18図）

平面は方形、断面は箱状を呈する。底面はほぼ平坦で壁はやや外傾し立ち上がる。規模は長軸181cm、短軸137cm、深さ58cmである。遺物は1点を図示した。

3号土坑（第18図）

平面は方形、断面は台形状を呈する。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。SX02と重複しこれに切られる。規模は長軸144cm、短軸75cm、深さ12cmである。

4号土坑（第18図）

平面は円形、断面は台形状を呈する。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸147cm、短軸141cm、深さ14cmである。

5号土坑（第18図）

平面は楕円形、断面は弧状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸159cm、短軸141cm、28cmである。遺物は1点を図示した。

6号土坑（第18図）

調査区外に展開するため、全容は不明である。平面は方形、断面は台形状を呈する。底面はほぼ平坦で壁はやや外傾し立ち上がる。規模は長軸99cm、短軸36cm、深さ46cmである。

7号土坑（第18図）

平面は円形、断面は箱状を呈する。底面はほぼ平坦で壁はやや外傾し立ち上がる。規模は長軸137cm、短軸128cm、深さ79cmである。

5 ピット

36号ピット（図版4）

「至」と書かれた墨書き土器が2点重なった状態で出土した。何らかの祭祀に伴い意図的に埋納されたものと考えられる。時期は8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。

6 性格不明遺構

1号性格不明遺構（第19図）

調査区外に展開するため、全容は不明である。底面は南西方向に緩やかに傾斜し、壁はやや外傾し立ち上がる。SX02と重複しこれを切る。規模は長軸446cm、短軸133cm、深さ50cmである。

2号性格不明遺構（第19図）

調査区外に展開するため、全容は不明である。底面は南西方向に緩やかに傾斜し、壁はやや外傾し立ち上がる。SX01と重複しこれに切られる。規模は長軸242cm、短軸165cm、深さ45cmである。

7 遺構外出土遺物

表土からは土師器、須恵器等の遺物が出土した。その内特徴的な遺物2点を図示した。

まとめ

今回の調査により本遺跡が奈良～平安時代（8世紀後葉から9世紀）にかけての集落跡であることが明らかになった。掘立柱建物跡では柱痕跡が良好に確認できた。今回復元できたのは10棟であるが、さらに多くの掘立柱建物跡が存在すると考えられる。SI03は廃棄に伴い使用可能な建築部材を抜き取ったのちに、意図的に焼却された焼失住居と推定される。SI06からは祭祀具と考えられる有孔円盤が出土している。「至」「富」「八十」等と墨書きされた墨書き土器41点、刻書き土器6点が出土した。墨書き土器は何らかの祭祀に使用されたと考えられる。

「至」と推定される墨書き土器は千葉県では谷津遺跡（旭市）から1点、坊作遺跡（市原市）から2点、桜井平遺跡（旭市）から1点、稲荷塚遺跡（四街道市）から3点が出土しており、本遺跡が5例目であり、確認で

きるだけで9点が出土している。全国では出津平遺跡（茨城県）1点、炭釜横穴群（宮城県）2点、山王遺跡（宮城県）1点、堀下八幡遺跡（群馬県）3点、上植木光仙房遺跡（群馬県）2点、久野部遺跡（滋賀県）1点、秋田城跡（秋田県）3点、払田柵跡（秋田県）1点、武藏國府関連遺跡（東京都）1点、石川遺跡（神奈川県）1点、南鍛冶山遺跡（神奈川県）1点、獅子内遺跡（福島県）4点、水守II遺跡（静岡県）1点、三新田遺跡（静岡県）1点、屋地遺跡（長野県）1点が出土している。「至」の墨書土器は西日本では、ほとんど出土せず、東北から関東にかけて分布が集中する傾向が見られる。

「八十」と推定される墨書土器は千葉県では南囲護台遺跡（成田市）1点、高岡大山遺跡（佐倉市）3点、多古台遺跡群（多古町）1点、上大城遺跡（袖ヶ浦市）2点が出土している。

「富」と推定される墨書土器は千葉県では印内台遺跡第20次調査（船橋市）1点、北海道遺跡（八千代市）29点、井戸向遺跡（八千代市）64点、白幡前遺跡（八千代市）3点、池ノ台遺跡（八千代市）1点、上谷遺跡（八千代市）2点、栗谷遺跡（八千代市）6点、境堀遺跡（八千代市）1点、柳台遺跡（匝瑳市）1点、六拾部遺跡（佐倉市）4点、浅間内遺跡（八千代市）1点が出土している。

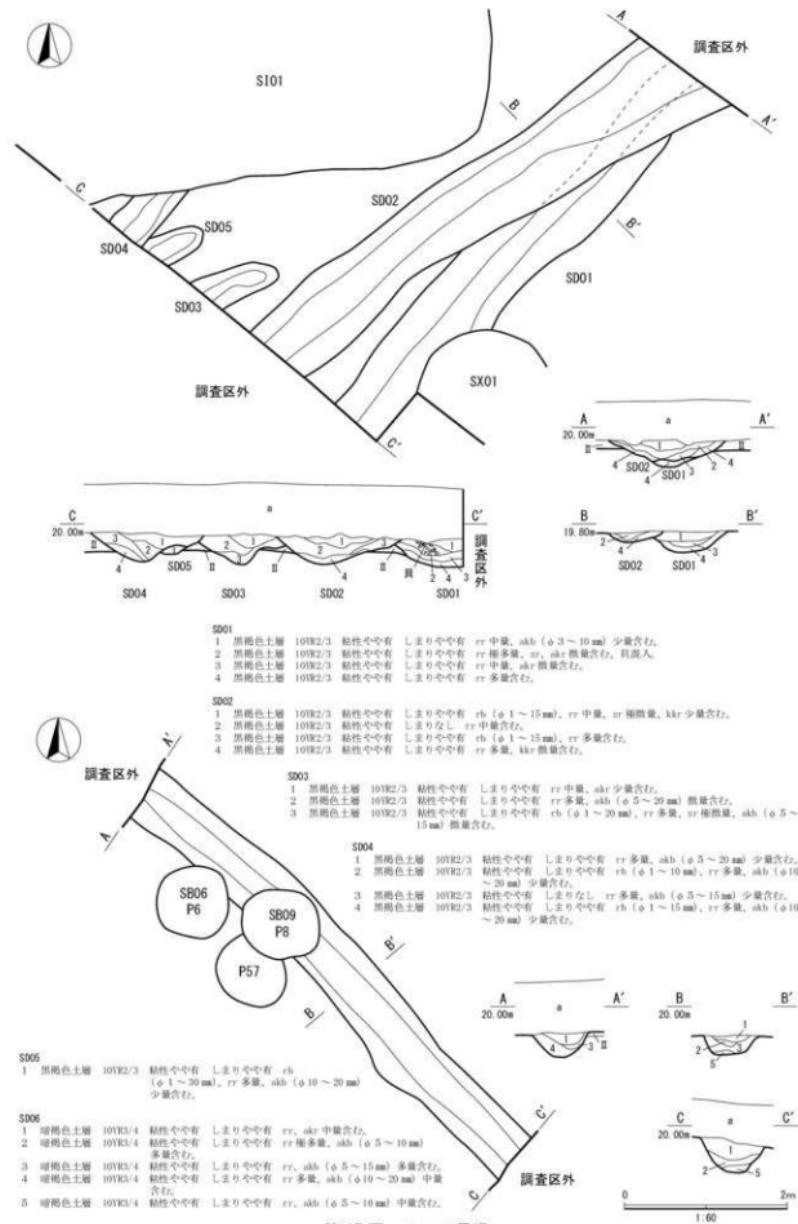
墨書土器の出土情報については、明治大学日本古代学研究所所長の墨書土器データベースを参照した。

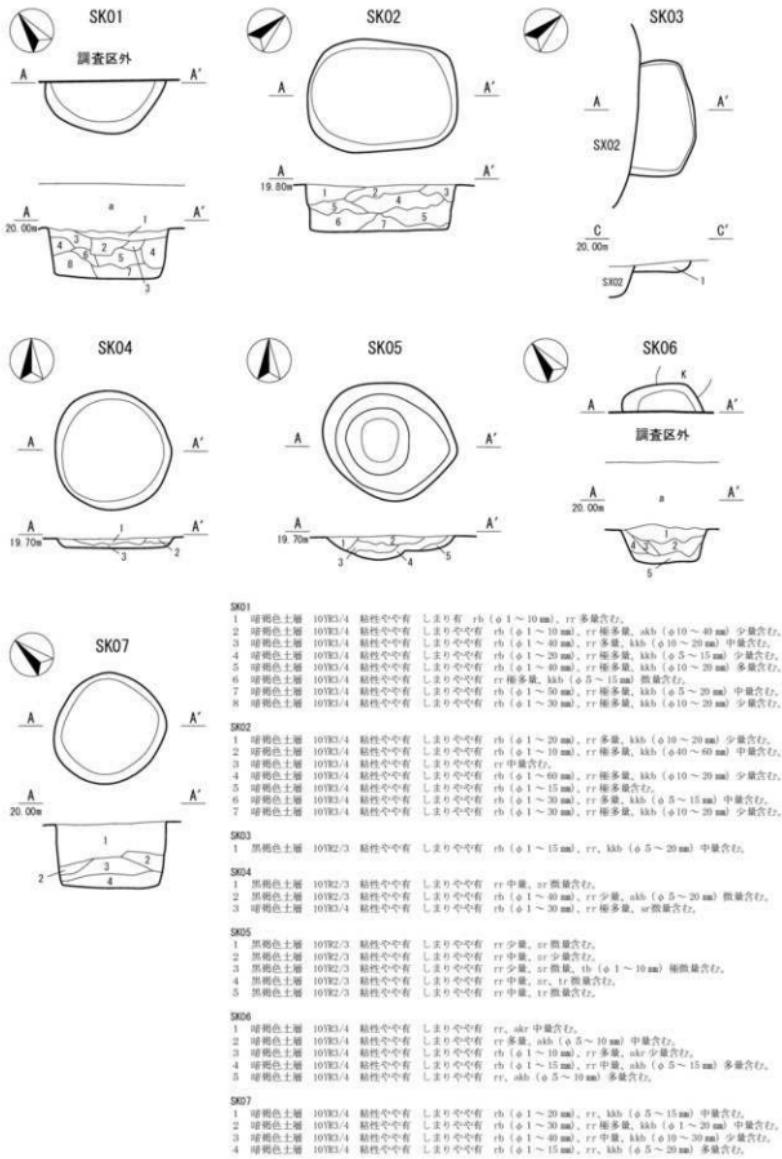
SD02からは貝（ハマグリ、シオフキ、アサリ、ツメタガイ）が出土したが、今回の調査では溝の一部しか検出されておらず、他にも貝層が存在すると考えられる。また、ツメタガイは1枚のみの出土であることと、肉食性の貝であることから意図的な採捕ではなく他の貝を探捕する際に紛れ込んだと考えられる。

掘立柱建物跡は主軸を東西または南北に取り規則性が認められる。各ピットは方形状を呈するものも見られ、また規模も通常のピットよりも大きく、墨書土器が出土する等の特徴が見られた。今回の調査では官衙と関連付けられる明確な遺構・遺物は検出されなかった。しかしながら、上記の特徴からこの地域の拠点的な集落であったと考えられる。

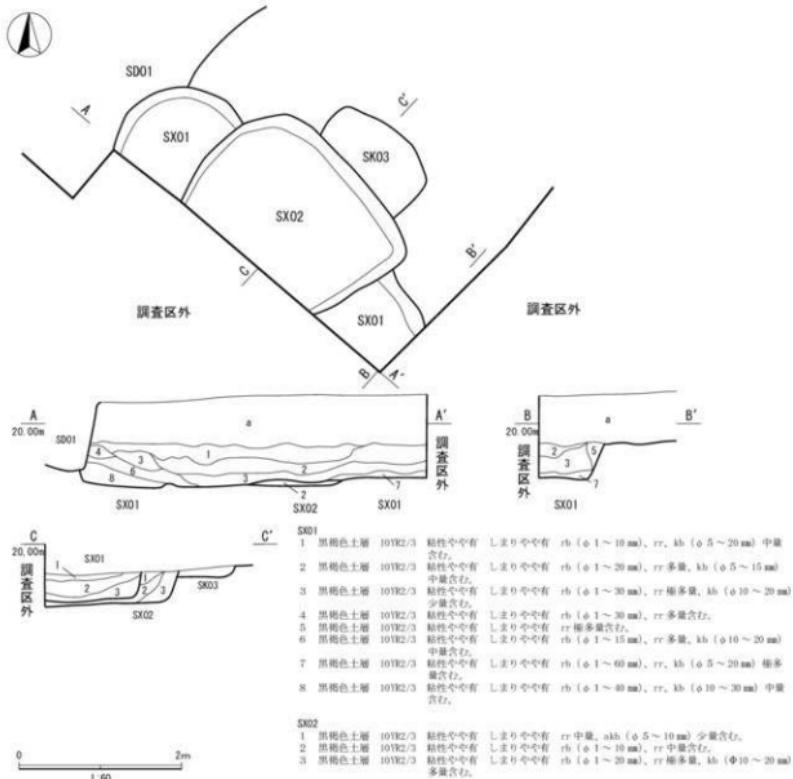
参考文献

- 石野博信 1991『日本原始・古代住居の研究』吉川弘文館
奥谷喬司編 2017『日本近海産貝類図鑑第二版』東海大学出版会
小林信一 1991『富里町吉川窯跡確認調査報告書』千葉県埋蔵文化財センター
笛生衛 1990『房総における黒色土器の展開と終焉』『東国土器研究第3号』東国土器研究会
佐久間豊 1986『房総をめぐる奈良・平安時代土師器生産体制の展開に関する諸問題』『研究紀要10』千葉県文化財センター
関口達彦 1991『千葉市中原窯跡確認調査報告書』千葉県教育委員会
谷旬・郷堀英司・小林信一 1993『生産遺跡の研究3-須恵器-』『研究紀要14』千葉県文化財センター
塙原勇人 2010『千葉市杉葉見遺跡』財團法人千葉市教育振興財團埋蔵文化財調査センター
松本太郎 2013『東国の土器と官衙遺跡』六一書房

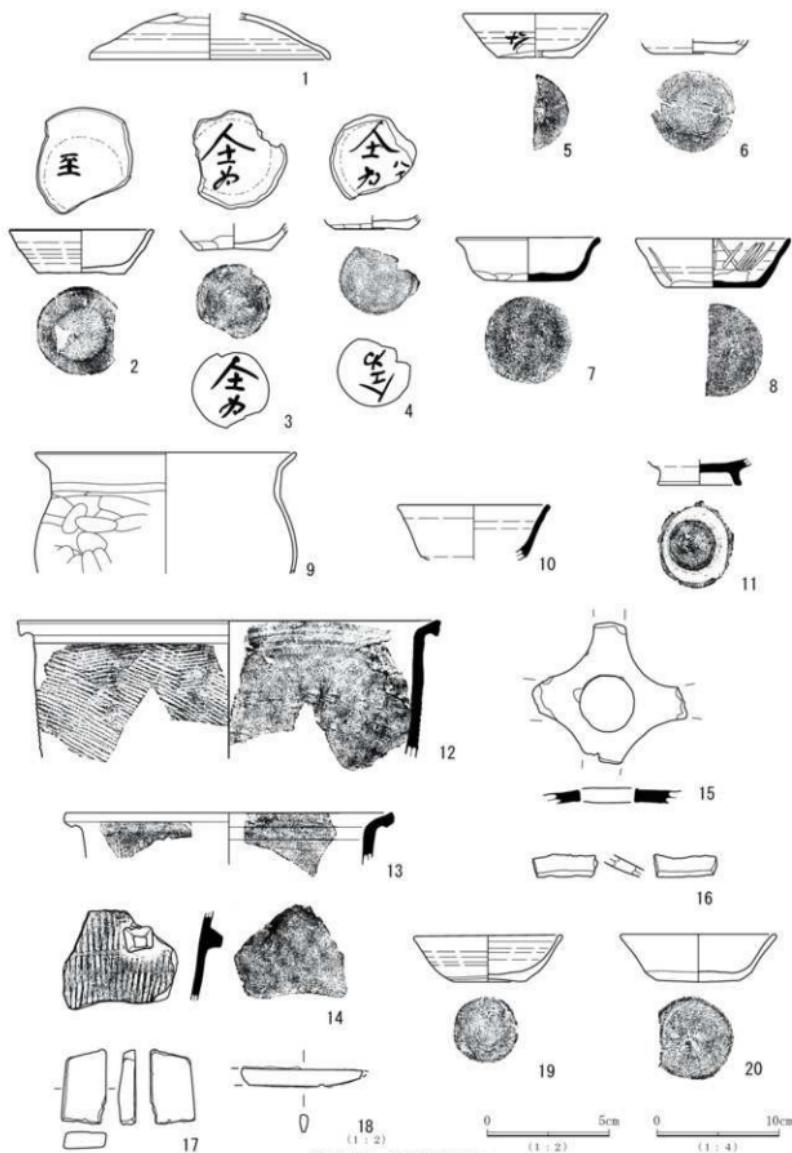




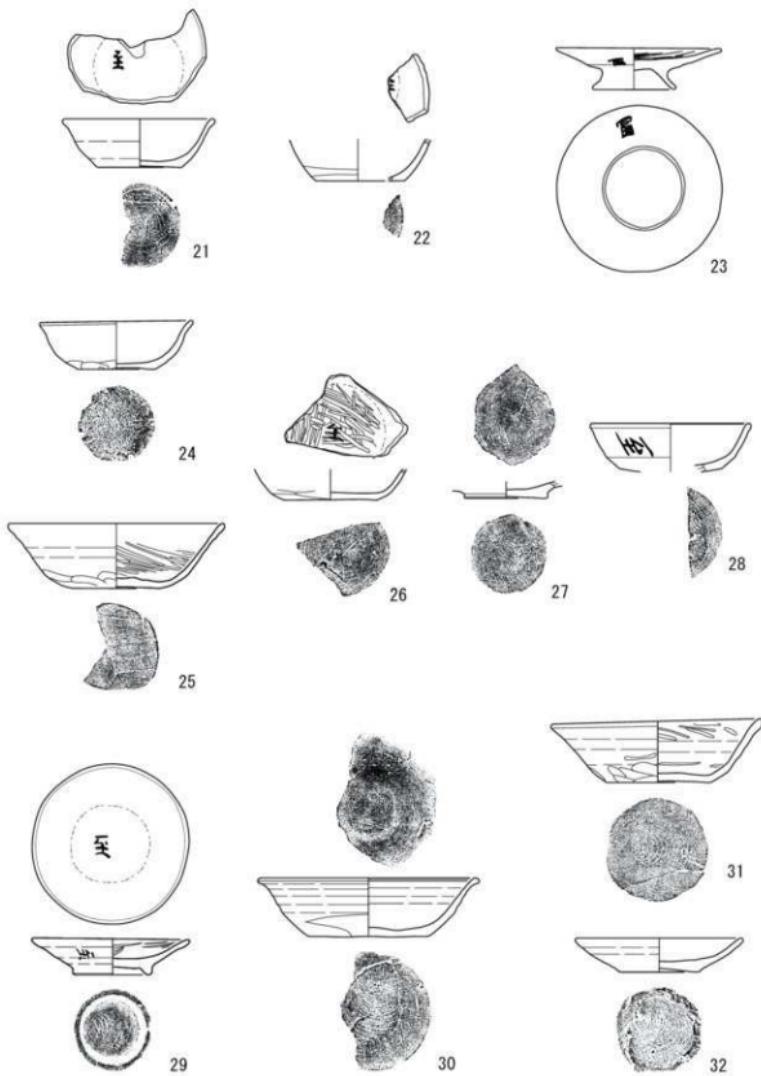
第18図 1～7号土坑



第 19 図 1・2 号性格不明遺構

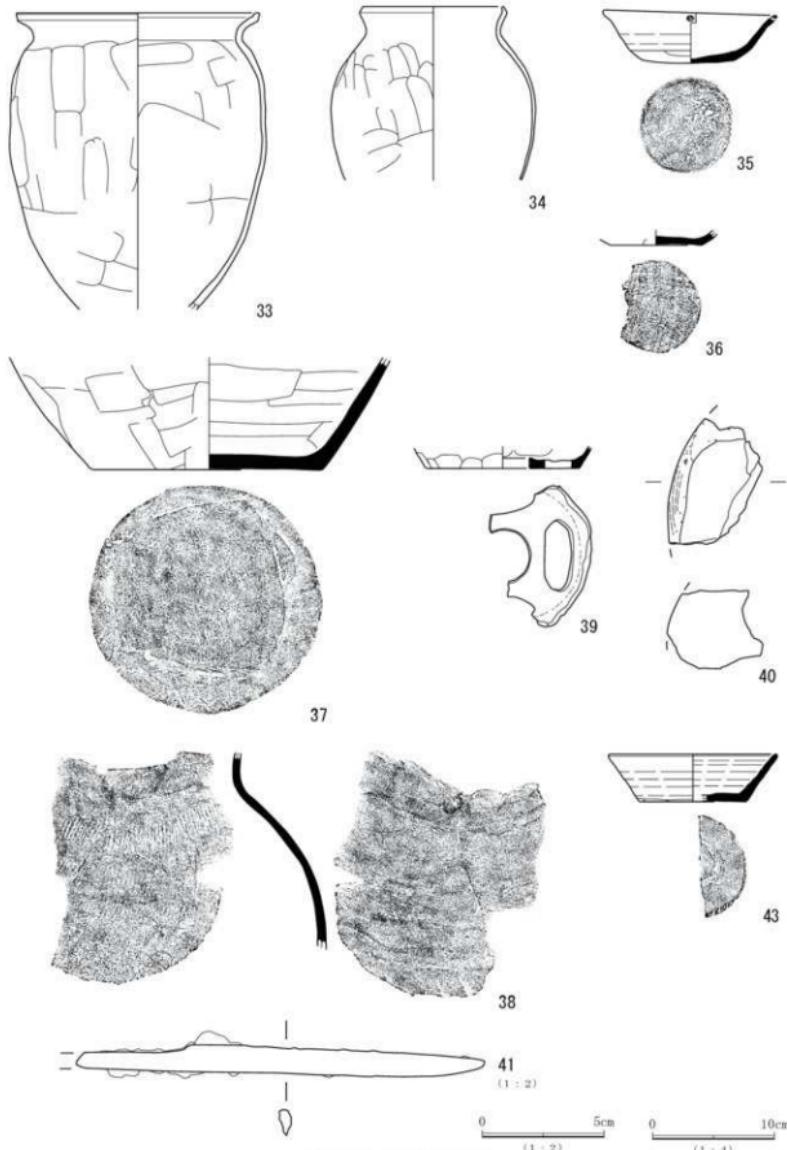


第20図 遺物実測図 1

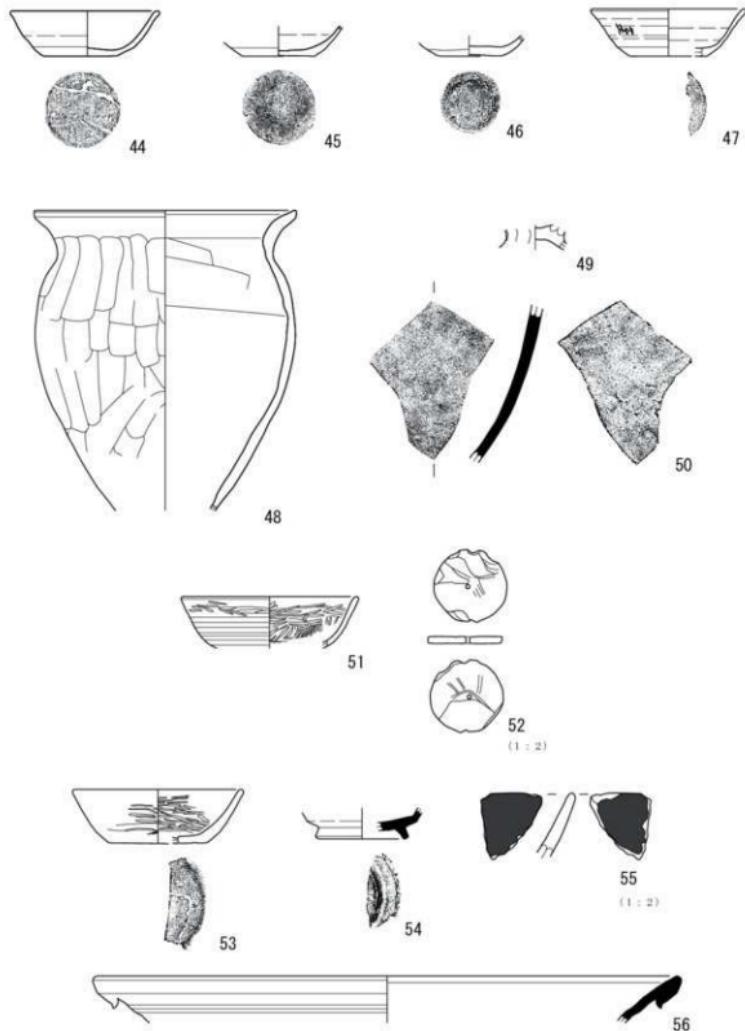


第21図 遺物実測図2

0 10cm
(1:4)

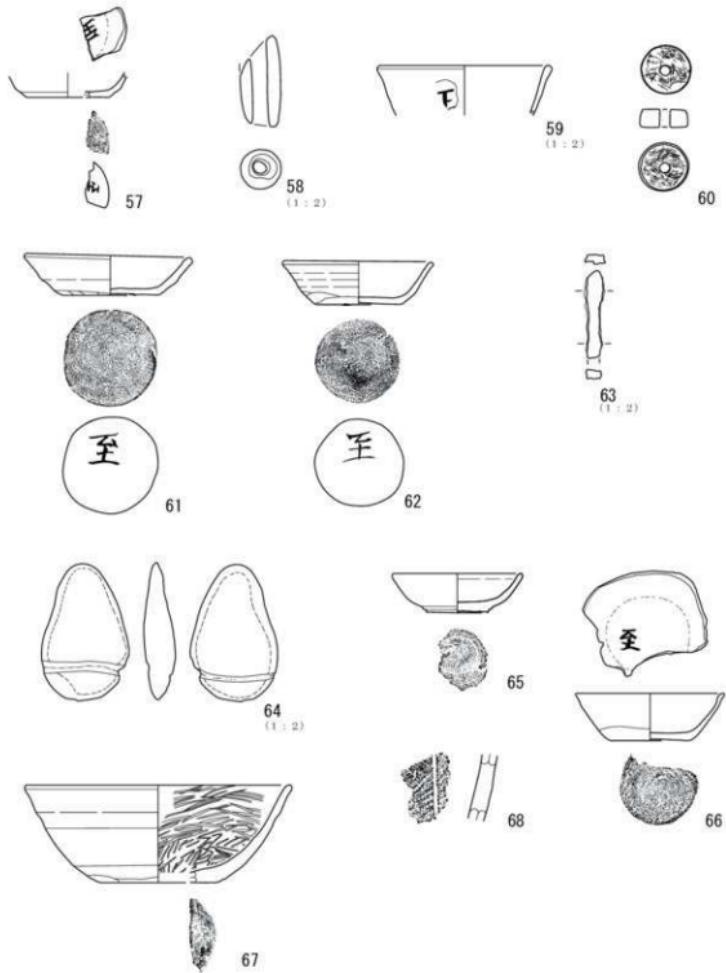


第22図 遺物実測図3



第23図 遺物実測図4

0 5cm
(1:2) 0 10cm
(1:4)



第24図 遺物実測図5

0 5cm (1 : 2) 0 10cm (1 : 4)

第2表 ピット一覧表

造構名	位置 方位	形態		法量		造構名	位置 方位	形態		法量			
		平面形	断面形	長軸	短軸			平面形	断面形	長軸	短軸		
P01	西	長楕円形	半円状	64	35	44	P53	西	円形	半円状	36	—	20
P02	西	楕円形	U字状	51	42	41	P54	西	円形	U字状	41	—	41
P03	西	円形	U字状	40	—	37	P55	西	推定楕円形	U字状	77	45以上	45
P04	西	楕円形	半円状	54	37	27	P56	西	楕円形	漏斗状	79	59	45
P05	西	推定円形	半円状	43	—	29	P57	西	推定円形	半円状	91	—	36
P06	西	楕円形	漏斗状	100	75	33	P58	西	円形	台形状	89	—	46
P07	西	推定円形	弧状	73	41上	—	P59	西	推定円形	台形状	64	—	19
P08	西	推定円形	扁状	130	以上	—	P60	西	推定円形	扁状	90	—	24
P09	西	円形	台形状	74	—	43	P61	西	円形	台形状	77	—	53
P10	西	楕円形	扁状	50	42	45	P62	西	推定円形	弧状	61	—	29
P11	西	推定楕円形	U字状	37	25以上	30	P63	西	推定楕円形	U字状	58	以上	62
P12	西	推定円形	台形状	60	—	23	P64	西	円形	漏斗状	85	—	67
P13	西	長楕円形	U字状	70	30	60	P65	西	円形	台形状	36	—	15
P14	西	推定不整形	扁状	70	30	21	P66	西	円形	台形状	48	—	32
P15	西	円形	半円状	71	—	25	P67	西	円形	台形状	43	—	34
P16	西	円形	台形状	42	—	24	P68	西	推定円形	U字状	96	—	84
P17	西	円形	台形状	48	—	25	P69	西	円形	台形状	92	—	43
P18	西	推定円形	台形状	52	—	35	P70	東	不整形	台形状	35	—	27
P19	西	円形	半円状	46	—	22	P71	北	円形	漏斗状	140	—	54
P20	西	楕円形	U字状	62	45	69	P72	北	推定楕円形	弧状	80	以上	82
P21	西	円形	扁状	70	—	37	P73	北	円形	半円状	78	—	45
P22	西	推定不整形	台形状	87	73以上	63	P74	北	推定円形	台形状	49	以上	45
P23	西	円形	台形状	66	—	36	P75	北	円形	半円状	55	—	26
P24	西	推定不整形	半円状	87	以上	63以上	P76	北	円形	漏斗状	55	—	35
P25	西	推定不整形	半円状	103	以上	67	P77	北	円形	弧状	67	—	13
P26	西	円形	漏斗状	58	—	48	P78	北	円形	弧状	95	—	16
P27	西	円形	U字状	58	—	48	P79	北	円形	漏斗状	45	—	29
P28	西	長楕円形	漏斗状	103	67	54	P80	東	推定円形	U字状	30	—	41
P29	西	円形	半円状	38	—	25	P81	東	楕円形	U字状	65	45	32
P30	西	推定円形	U字状	35	—	39	P82	東	楕円形	台形状	32	以上	50
P31	西	円形	台形状	39	—	22	P83	北	円形	漏斗状	60	—	32
P32	西	円形	半円状	40	—	29	P84	北	円形	扁状	30	—	36
P33	西	推定楕円形	不明	92	以上	25以上	P85	北	楕円形	扁状	61	40	28
P34	西	推定楕円形	弧状	39	以上	40	P86	北	円形	半円状	65	—	58
P35	西	推定楕円形	半円状	48	39	37	P87	西	推定円形	扁状	65	—	37
P36	西	推定円形	漏斗状	80	—	71	P88	西	推定円形	台形状	82	—	45
P37	北	円形	弧状	90	—	26	P89	北	楕円形	半円状	37	以上	64
P38	西	円形	弧状	54	—	14	P90	北	円形	台形状	55	—	48
P39	北西	推定円形	半円状	68	—	54	P91	北	円形	半円状	60	—	39
P40	北西	円形	漏斗状	77	—	59	P92	東	円形	台形状	36	—	29
P41	西	円形	半円状	63	—	25	P93	東	円形	台形状	66	—	46
P42	西	円形	漏斗状	74	—	69	P94	北	円形	漏斗状	37	—	45
P43	西	円形	半円状	80	—	37	P95	東	円形	半円状	45	—	24
P44	西	推定円形	台形状	75	—	34	P96	東	円形	U字状	51	—	55
P45	西	円形	扁状	76	—	65	P97	北西	円形	漏斗状	122	—	51
P46	西	円形	台形状	36	—	28	P98	東	楕円形	漏斗状	50	以上	66
P47	西	推定円形	台形状	44	—	13	P99	東	楕円形	台形状	83	以上	53
P48	東	楕円形	台形状	70	58	27	P100	東	円形	U字状	45	—	54
P49	北西	推定楕円形	扁状	90	以上	51	P101	東	推定円形	U字状	30	以上	51
P50	北西	円形	扁状	31	—	26	P102	北	推定円形	台形状	13	7	—
P51	西	長楕円形	台形状	100	68	58	P103	西	推定円形	台形状	16	2	—
P52	西	推定楕円形	扁状	97	86以上	96							

第3表 据立柱建物跡 ピット一覧表 1

1号据立柱建物跡

造構名	位置 方位	形態		法量		造構名	位置 方位	形態		法量			
		平面形	断面形	長軸	短軸			平面形	断面形	長軸	短軸		
P1	南西	円形	U字状	43	—	14	P4	南西	円形	U字状	30	—	46
P2	西	円形	U字状	47	—	30	P5	南西	推定円形	扁状	54	—	27
P3	南西	円形	台形状	57	—	25							

2号据立柱建物跡

造構名	位置 方位	形態		法量		造構名	位置 方位	形態		法量			
		平面形	断面形	長軸	短軸			平面形	断面形	長軸	短軸		
P1	南西	円形	弧状	50	—	13	P4	南西	円形	漏斗状	50	—	25
P2	南西	推定円形	U字状	48	—	51	P5	南西	円形	台形状	46	—	26
P3	南西	円形	台形状	58	—	25							

第5表 土出土遺物観察表1

1号竪穴住居跡

番号	器種	残存状態	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・手法	焼成	胎土	色調	備考
1	土鍋器 盆	天井部～端縁 1/4	(19.6) (3.78)	-	-	縫合欠損。笠状、かさし無し、端部崩壊。天井部外面回転ヘラケズり後一面ナゲ、内面ミガキ。	良好	砂粒	内外面：5YR6/8 褐色	
2	土鍋器 手	口縁部～体部 1/4・ 底部完全	(11.7) 3.6	7.2	-	口縁部内外面ヨコナゲ。外面ナゲ。下端回転ヘラケズリ。内面ミガキ込み部分ナゲ。 底部回転部切り離し後周縁回転ヘラケズリ。	良好	砂粒	内外面：10YR6/6 明黄褐色	見込み部「至」 墨書き。
3	土鍋器 手	体部 1/10・ 底部 9/10	-	(2.18) 6.18	-	外側ナゲ、下端手持ちヘラケズリ。内面ミガキ部分ナゲ。底部回転部切り離し後周縁回転ヘラケズリ調整。	良好	砂粒 雲母片	内面：10YR6/6 明黄褐色 外面：2.5YR6/8 明赤褐色	見込み部及び底 部「全▲」墨書き。
4	土鍋器 手	体部下端 1/10・底 部 2/3	-	(1.12) (6.01)	-	体部内面及び見込み部分ナゲ。外面下端手持ちヘラケズリ。底部外面回転部切り離し後周縁回転ヘラケズリ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：2.5YR6/8 褐色	見込み部及C底 部「全▲」墨書き。
5	土鍋器 手	口縁部～ 体部 1/4・底 部 1/2	(12.4) 3.59	(6.16)	-	口縁部内外面ヨコナゲ。外面ナゲ。下端手持ちヘラケズリ。内面ミガキ込み部分ナゲ。底部回転部切り離し後周縁回転ヘラケズリ調整。	良好	砂粒 雲母片	内外面：10YR6/6 明黄褐色	体部外面 「八十」。底部製作不明墨書き。
6	土鍋器 手	体部下端 1/10・底 部完全	-	(1.27) (6.84)	-	体部内面及び見込み部分ナゲ。外面下端回転ヘラケズリ。底部外面回転部切り離し後周縁回転ヘラケズリ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：10YR7/8 黄褐色	底部外面に似哉 不明の墨書き。
7	須恵器 盆	完全	11.7	3.39	7.36	口縁部外況。口縁部内外面ヨコナゲ。体部内面及び見込み部分ナゲ。底部切り離し後ナゲ。	良好	砂粒 雲母片	内面：9.5/1 灰色	吉川窑跡群衆。
8	須恵器 手	口縁部～ 体部及び 底部 1/2	(12.5) 4.02	7.76	-	口縁部内外面ヨコナゲ。外面ナゲ。下端回転ヘラケズリ。内面ミガキ込み部分ナゲ。 底部「八」切離し後ナゲ。	良好	砂粒 雲母片	内面：10YR5/8 褐色 外面：2.5YR6/6 褐色	中野窑跡群衆。 中野大窯段。 中野見込み部 黒化。
9	土鍋器 手	口縁部 1/5・ 脚部 1/10	(21.1) (10.03)	-	-	口縁部長く外面。内外面ヨコナゲ。脚部外側多方向ヘラケズリ。内面ナゲ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：2.5YR6/8 褐色	
10	須恵器 手	口縁部～ 体部 1/3	(12.2) 4.66	-	-	口縁部内外面ヨコナゲ。体部内外面及び見込み部分ナゲ。底部下端手持ちヘラケズリ。底部外面回転部切り離し後周縁部回転ヘラケズリ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：2.5YR2/2 黑褐色	中野窑跡群衆。
11	須恵器 台付 底座	体部 1/10・ 底座完全	-	(2.19) 6.24	-	体部及び見込み部分ナゲ。底部へラ切離し。周縁部斜り付け。接觸部外面に突出。	良好	砂粒 雲母片	内面：2.5/1 灰色	中野窑跡群衆。
12	須恵器 手	口縁部～ 脚部 1/5	(34.3) (11.35)	-	-	口縁部下方部外側二つ出、内面ナゲ。脚部外側斜方曲並行略傾き、内面ナゲ、一部で具楕。	良好	砂粒	内面：N5/ 灰色 外面：N5/ 灰色	吉川窑跡群衆。
13	須恵器 手	口縁部～ 脚部	(26.6) (4.27)	-	-	口縁部外側に張り出。口縁部内外面ヨコナゲ。脚部外側斜方曲並行略傾き、内面ヘラナゲ等ナゲ。	良好	砂粒	内面：10YR7/2 にぶい黄褐色	
14	須恵器 枕	脚部斜片	-	(7.39)	-	外面部方向に叩き寄せ。ビラミッド状の把手貼り付け。内面丁寧なナゲ。	良好	砂粒	内面：5Y5/2 尾サリーブ色	吉川窑跡群衆。
15	須恵器 脱	底部 2/3	-	1.15	-	S孔。鶴円や円形の透かし。全面ナゲ。	良好	砂粒	内面：2.5YR2/2 黑褐色	中野窑跡群衆。
16	陶器 蓋	脚部片	-	(2.4)	-	外面施釉。	良好	砂粒	胎土：10YR5/1 褐色 外面（脚部）：5Y3/1 オリーブ色 内面：10R3/4 暗赤色	
17	石製品 鉢石	両端欠損	長さ (6.17)	幅 (3.58)	厚さ 1.36	4面が使用面。仕上研。	=	=	=	軸岩。42.5 g.
18	鉄製品 丸子	基部～ 先端部残 存	長さ (4.79)	幅 (0.7)	厚さ 0.31	小型製品。	=	=	=	3.5 g.

2号竪穴住居跡

番号	器種	残存状態	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・手法	焼成	胎土	色調	備考
19	土鍋器 手	口縁部～ 体部 2/3・ 底部完全	(11.9) 3.81	5.96	-	口縁部内外面ヨコナゲ。体部内外面ナゲ。下端回転ヘラケズリ。内面及び見込み部分ナゲ。底部回転部切り離し後周縁部回転ヘラケズリ調整。	良好	砂粒 雲母片	内外面：2.5YR7/8 明黄褐色	
20	土鍋器 手	口縁部～ 体部 1/2・ 底部 1/2 完全	(12.91) 3.94	(6.66)	-	口縁部内外面ヨコナゲ。体部内外面及び見込み部分ナゲ。外面ナゲ。下端回転ヘラケズリ。底部外面回転ヘラ切離し。	良好	砂粒	内外面：2.5YR6/8 褐色	
21	土鍋器 手	口縁部～ 体部 1/3・ 底部 2/3	(11.8) 3.94	(6.88)	-	口縁部内外面ヨコナゲ。体部内外面ナゲ。下端回転ヘラケズリ。内面及び見込み部分ナゲ。底部へラ切離し後ナゲ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：2.5YR7/6 褐色	見込み部「至」 墨書き。
22	土鍋器 手	体部～ 底部片	-	(3.41)	(7.58)	体部内外面ナゲ。下端回転ヘラケズリ。内面及び見込み部分ナゲ。底部切り離し接触不明。ナゲ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：2.5YR7/6 褐色	見込み部既述不明の墨書き。
23	土鍋器 高台付手	縫部～ 高台 4/5 残存	13.6	3.43	6.85	縫部逆高台付。ナゲ。天井部外面下端回転ヘラケズリ。中央部～縫部ナゲ。内面多方向のミガキ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：2.5YR7/6 褐色	天井部「富」墨 書き。

第6表 出土遺物観察表2

3号竪穴住居跡

番号	器種	現存状態	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	特徴・手法	地質	胎土	色調	備考
24	土師器 杯	口縁部一 周欠損	12.5	3.99	6.3	口縁部外反。内外面ヨコナヂ。体部外面ナヂ。下端手 持ちヘラケズリ。内面へ見込み部ナヂ。 底部回転止め切り後ナヂ。棒状の底窓あり。	良好	砂粒 雲母片	内面 : 7.5YR6/8 褐色 外面 : 7.5YR4/6 褐色	
25	土師器 杯	口縁部~ 体部1/2・ 底窓3/4	(17.4)	5.32	(7.17)	口縁部内外面ヨコナヂ。外面回転ナヂ。内面磨き・ナ ヂ。底部手持ちヘラケズリ。	良好	砂粒	内外面 : 7.5YR6/4 12.5Y4-6 褐色	
26	土師器 杯	体部一部、 底部1/2	-	<2.65	(7.68)	体部外面ナヂ。下端ヘラケズリ。内面ナヂ。見込み部 多方向のミガキ。底部外面ヘラ切り離し後ナヂ。	良好	砂粒 雲母片	内外面 : 7.5YR6/6 褐色	見込み部「至」 墨書き。外側底 部の削割。
27	土師器 杯	底部完全	-	<1.42	6.7	見込み部ナヂ。 底部外面回転止め切り離し後幅広のヘラケズリ。	良好	砂粒 雲母片	内外面 : 10YR7/4 12.5Y4-6 褐色	見込み部底波不 明の削割2箇所。
28	土師器 杯	口縁部~ 体部1/2・ 底窓1/3	(12.9)	3.96	(7.78)	口縁部内外面ヨコナヂ。体部外面ナヂ。下端回転ヘラ ケズリ。内面へ見込み部ナヂ。 底部回転止め切り後幅広のヘラケズリ調整。	良好	砂粒 白色針 状物質	内外面 : 10YR6.6 明黄褐色	体部外面横位 「至」墨書き。
29	土師器 高台付杯	体部 一端欠損。	12.9	3.04	6.28	口縁部内外面ヨコナヂ。 体部外面ナヂ。内面斜方向ミガキ。見込み部ナヂ。 底部回転止め切り後ナヂ。高台部残り付。	良好	砂粒	内外面 : 7.5YR7/8 褐色	見込み部及び体 部外側横位「至」 墨書き。
30	土師器 碗	口縁部~ 体部1/2・ 底窓2/3	-	4.9	(9.7)	口縁部外反。内外面ヨコナヂ。体部外面回転ナヂ。下 端手持ちヘラケズリ。内面へ見込み部ナヂ。 底部回転止め切り後底窓部窓枠のヘラケズリ調整。	良好	砂粒 雲母片	内外面 : 7.5YR7/6 褐色	見込み部及び底 部外側不明の削 割。
31	土師器 碗	口縁部~ 体部1/2・ 底窓完全	17.0	5.24	8.36	口縁部内外面ヨコナヂ。体部外面ナヂ。下端手持ちヘ ラケズリ。内面ナヂ。一部ミガキ。見込み部ナヂ。 底部外面回転止め切り離し後幅広のヘラケズリ。	良好	砂粒	内外面 : 7.5YR6/3 12.5Y4-6 褐色	
32	土師器 皿	口縁部~ 体部2/3・ 底窓完全	(14.1)	2.78	6.73	口縁部内外面ヨコナヂ。 体部内外面及び見込み部ナヂ。 底部外面回転止め切り離し。	良好	砂粒 雲母片	内外面 : 10YR7/6 明黄褐色	
33	土師器 盤	口縁部 1/4・脚部 1/4	(19.50)	(24.27)	-	口縁部外側削痕。口縁部内外面ヨコナヂ。 脚部外面上に一中位幅方向幅広ヘラケズリ。下位横 方向幅広のヘラケズリ。内面横方向のヘラナヂ無ナヂ。	良好	砂粒 雲母片 白色針 状物質	内外面 : 7.5YR6/8 褐色	常盤型彫。
34	土師器 盤	口縁部 1/4・脚部 1/3	(11.49)	(14.25)	-	口縁部上方に突出。口縁部内外面ヨコナヂ。 脚部内部削痕。外面上位へ中位縱方向へラケズリ。下 位横方向のヘラケズリ。	良好	砂粒 雲母片 白色針 状物質	内外面 : 2.5YR5/8 明赤褐色	常盤型彫。
35	須恵器 杯	ほぼ完全	14.07	4.35	7.66	口縁部直下に複数1列の横成長穿孔。口縁部内外面ヨ コナヂ。体部内面及(?)見込み部ナヂ。外面回転ナヂ。 下端回転ヘラケズリ。底窓外底面削離し後幅広の 手持ちヘラケズリ。	良好	砂粒	内外面 : 10YR5/4 12.5Y4-6 褐色	中原窯跡群產。
36	須恵器 碗	体部下端 1/10・底 窓3/4残 存	-	<1.80	(7.54)	体部内面及び見込み部ナヂ。外下面下端手持ちヘラケズ リ。底部外側切り離し技法不明。全面一方向へラケズ リ。	良好	砂粒	内外面 : 7.5YR3/2 黒褐色	中原窯跡群產。
37	須恵器 盤	脚部下端 1/10・ 底部完全	-	(9.2)	18.78	脚部下端及び横方向へラケズリ。 見込み部ナヂ。底部外面ナヂ。	良好	砂粒 雲母片	内外面 : 10YR4/3 12.5Y4-6 褐色	
38	須恵器 盤	脚部1/3	-	(16.12)	-	脚部外側縱方向並行叩き。中位ナヂ。内面へラナヂ後 ナヂ。	良好	砂粒	内面 : 7.5YR4/4 12.5Y4-6 褐色 外面 : 7.5Y5/6 明赤褐色	中原窯跡群產。
39	須恵器 盤	脚部下端 及O部 1/3	-	(11.85)	(12.64)	5孔。脚部外面下端横方向へラケズリ。内面ナヂ。指 痕。見込み部ナヂ。底部外面回転止め切り離し後ナヂ。	良好	砂粒 雲母片	内外面 : 2.5YR4/2 灰半色	中原窯跡群產。
40	石製品 石臼	-	(11.7)	7.33	(7.57)	側面研磨。	-	-	-	割れ面比熱。安 山岩。772.5 g。
41	鉄製品 刀子	基部 一部欠損	長さ 16.9	幅 1.03	厚さ 0.49	刃面上面内厚。	-	-	-	22.0 g。
42	鉄津	-				継合部接続。	-	-	-	376.5 g。

第7表 出土遺物観察表3

4号竪穴住居跡

番号	器種	残存状態	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・手法	焼成	胎土	色調	備考
43	須恵器 鉢	体部～底部 1/2	(13.58)	3.93	(8.56)	口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面回転ナダ。見込み部ナダ。底部外面回転ヒラ切り離し。	良好	砂粒 雲母片	内外面：10YR7/1 灰白色	新治塗経群衆。

5号竪穴住居跡

番号	器種	残存状態	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・手法	焼成	胎土	色調	備考
44	土師器 鉢	口縁部～ 体部一部 大損	(12.67)	3.71	6.00	口縁部内外面ヨコナダ。体部外面ナダ。下端回転ヘラケズリ。内面及び見込み部ナダ。底部外面回転ヒラ切り離し後ナダ。	良好	砂粒 雲母片	内面：7.5YR6/8 褐色 外面：7.5YR7/8 褐色	
45	土師器 环	体部下位 一部・底 部充存	-	<2.480	5.95	体部内面及び見込み部丁寧なナダ。体部外面下端回転ヒラケズリ。底部外面回転ヒラ切り離し後周縁部幅広の回転ヘラケズリ。	良好	砂粒 雲母片	内面：5YR5/8 明赤褐色 外面：7.5YR7/8 褐色	遺物残存周縁部 人为的に切断。
46	土師器 环	体部下位 一部・底 部充存	-	<1.685	5.17	体部内面及び見込み部丁寧なナダ。体部外面下端回転ヒラケズリ。底部外面回転ヒラ切り離し後周縁部回転ヘラケズリ。	良好	砂粒	内外面：7.5YR7/8 黄褐色	遺物残存周縁部 人为的に切断。
47	土師器 环	口縁部～ 体部1/3・ 底部一部	(12.41)	3.88	(5.90)	口縁部外縁、内面ヨコナダ。体部外面ナダ。下端回転ヘラケズリ。内面及び見込み部ナダ。底部切り離し技術不明ヘラケズリ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：7.5YR6/8 褐色	体部外面横位 「至」墨書。
48	土師器 環	口縁部 及1/5 底部1/3	(21.19)	(24.55)	-	口縁部上方に突出。口縁部内外面ヨコナダ。側面外底縫及び斜方向ヘラケズリ。内面横方向ヘラカズリ後ナダ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：10YR4/4 褐色	常盤型便。
49	土師器 台付環	接合部	-	<2.45	-	側面底部ナダ。接合部ヘラ・指頭底で調整。	良好	砂粒 雲母片	内面：5YR5/8 明赤褐色 外面：5YR4/4 に5Y5赤褐色	
50	須恵器 雙	側面部	-	(12.90)	-	側面内外面ナダ。	良好	砂粒 小粒 雲母片	内面：10YR6/1 褐灰色 外面：NA/灰色	切削面面粗糲、 軸用砥石。

6号竪穴住居跡

番号	器種	残存状態	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・手法	焼成	胎土	色調	備考
51	土師器 环	口縁部～ 体部1/3	(14.30)	4.23	-	内面黒褐色化。口縁部内面ヨコナダ。外面部ヨコナダ後横方向のくがき。体部外面回転ナダ。内面及び見込み部多方向のくがき。	良好	砂粒	内面：NL5/黑 外面：2.5YR7/6 明赤褐色	
52	石製品 有孔円盤	側面一部 大損	長さ 2.99	厚さ 0.27	乳頭 0.18	ほぼ円形と思われる。孔は1mm程と小さい。	-	-	-	滑石製。4.3 g。

掘立柱建物跡

番号	遺構名	器種	残存状態	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・手法	焼成	胎土	色調	備考
53	SB06 P3	土師器 环	口縁部～ 体部1/4・ 底部1/2	(14.0)	4.43	(8.5)	内面黒褐色化。口縁部内外面ヨコナダ。体部外面ナダ。下端回転ヘラケズリ。内面横方向ミガキ。底部外面回転ヒラカズリ。見込み部多方向ミガキ。底部外面回転ヒラカズリ後横方向のくがき。	良好	砂粒 雲母片	内面：N2/ 黑色 外面：7.5YR6/6 褐色	
54	SB07 P2	須恵器 环	体部～ 高台付环	-	<2.55	(7.01)	体部外面下端回転ナダ。内面及び見込み部ナダ。底部外面回転ヒラカズリ。ナダ。高台部貼り付け。	良好	砂粒	内外面：10YR6/1 褐灰色	新治塗経群衆。
55	SB07 P7	土師器 环	环部口縁部 へ体部 部	-	(2.7)	-	口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面ナダ。	良好	砂粒	内外面：10YR6/8 赤色	内外面全面赤紅。
56	SB08 P4	須恵器 鉢	口縁部～ 側面部	(48.3)	(3.87)	-	口縁部折り返し。下端で外面に突出。側面内外面ナダ。	良好	砂粒	内外面：10YR4/1 褐灰色	

6号溝

番号	器種	残存状態	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・手法	焼成	胎土	色調	備考
57	土師器 环	体部～ 底部片	-	<2.04	(6.68)	体部外面ナダ。下端回転ヘラケズリ。内面及び見込み部ナダ。底部切り離し技術不明後ヘラケズリ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：7.5YR6/6 褐色	見込み部及び瓶 部「至」墨書。

第8表 出土遺物観察表4

土坑

番号	遺構名	器種	残存状態	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・手法	焼成	胎土	色調	備考
58	SK02	土製品 土鍋	上下端部 欠損	長さ (3.72)	幅 —	厚さ 1.65	外面ナデ。	良好	砂粒	内外面：7.5YR6/8 褐色	7.6 g.
59	SK05	土師器 鉢	口縁部～ 体部片	(14.4)	<4.06	—	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	良好	砂粒 白色 片状物質	内面：7.5YR6/8 褐色 外面：7.5YR6/6 褐色	体部外面被膜不 明の墨書き。

ピット

番号	遺構名	器種	残存状態	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・手法	焼成	胎土	色調	備考
60	P16	石製品 結縛車	完存	長さ 3.95	厚さ 1.36	孔径 9.34	全面に調整痕。側上面に1条の沈れ。	—	—	—	滑石製。45.5 g.
61	P26	土師器 鉢	完存	13.5	3.38	7.92	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。下端手持ちヘラケズリ。内面及び見込み部ナデ。底部外面回転糸切り離し後手持ちヘラケズリ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：10YR6/8 明黄褐色	底部外面「至」 墨書き。
62	P36	土師器 鉢	口縁部 一部欠損	12.28	3.58	6.97	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。下端手持ちヘラケズリ。内面及び見込み部ナデ。底部外面回転糸切り離し後手持ちヘラケズリ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：10YR6/8 明黄褐色	底部外面「至」 墨書き。
63	P57	石製品 鉄繩ヶ	基部～ 刃部の一 部欠存	長さ 3.69	幅 8.34	厚さ 3.95	基部断面方形。刃部菱形。	—	—	—	刃部の大半を欠損 した力子の可能性 あり。3.7 g.
64	P63	石製品 石鍔	完存	長さ (5.58)	幅 1.23	厚さ (3.53)	菱形椎円形。下位側面を複数枚。そこから構状 の溝みを横走。全面に丁寧な調整を施す。	—	—	—	硬質砂岩。27.9 g.
65	P71	土師器 鉢	口縁部～ 体部1/8・ 底部4/5	—	(3.2)	(5.15)	口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面及び見込み 部ナデ。底部外面回転糸切り離し後未調整。 底部突出。	良好	砂粒	内面：10YR6/4 に赤い黄褐色 外面：5YR8/8 明黄褐色	
66	P73	土師器 鉢	口縁部～ 体部1/5・ 底部2/3	(11.9)	3.85	(6.47)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。下端へ ラケズリ後ナデ。内面及び見込み部ナデ。 底部外面切り離し挂法不明ナデ。	良好	砂粒 雲母片	内外面：7.5YR7/6 褐色	見込み部「至」 墨書き。

造構外

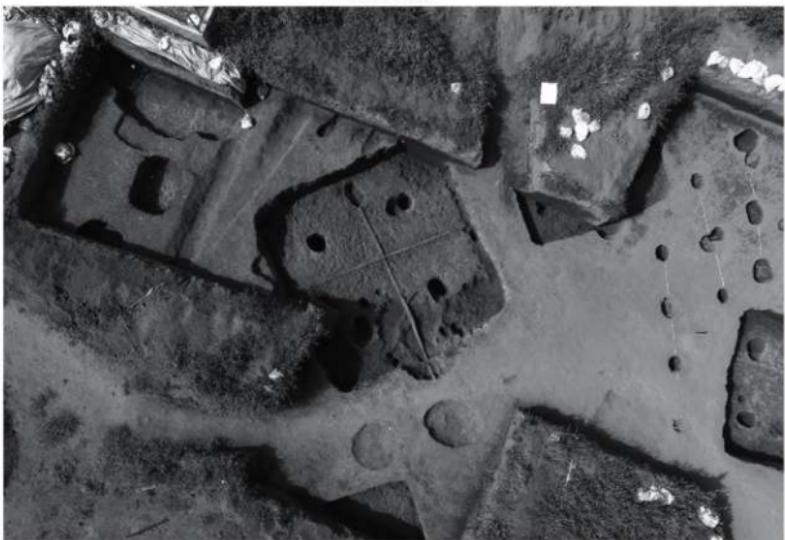
番号	器種	残存状態	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・手法	焼成	胎土	色調	備考
67	土師器 鍋	口縁部～ 体部1/5・ 底部1/5	(21.90)	8.0	(9.17)	内部黑色化。口縁部内外面ヨコナデ。 体部回転ナデ。下端手持ちヘラケズリ。内面横方向 ミガキ。見込み部多方向ミガキ。 底部外面切り離し挂法不明ナデ。	良好	砂粒 雲母片	内面：N1.5/ 黑色 外面：10YR6/8 明黄褐色	
68	織文土器 深鉢	網目破片	—	<5.517	—	縦裏屈の溝文を斜走。1条の沈れを垂下させ区画。 区画内を擦り酒す。	良好	砂粒	内外面：2.5YR6/8 赤褐色	縄文時代中期 後黄加青初E面 式。

写 真 図 版

図版 1



調査区全景



調査区近景

図版 2



テストピット断面 南西から



S101 完掘 南から



S101 断面 南東から (A-A', B-B')



S101 カマド完掘 南から



S101 カマド断面 南から (B-B')



S102 完掘 北から



S102 断面 北東から (B-B')



S103 完掘 東から

図版 3



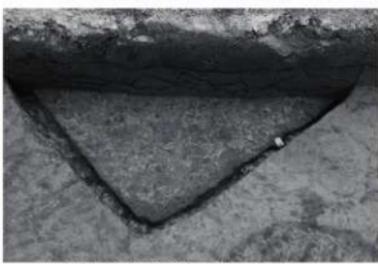
SI03 断面 東から (A-A')



SI03 遺物出土状況 東から



SI03 カマド断面 東から (B-B')



SI04 遺物出土状況・完掘 南西から



SI05 完掘 北東から



SI05 カマド断面 東から (A-A') (B-B')

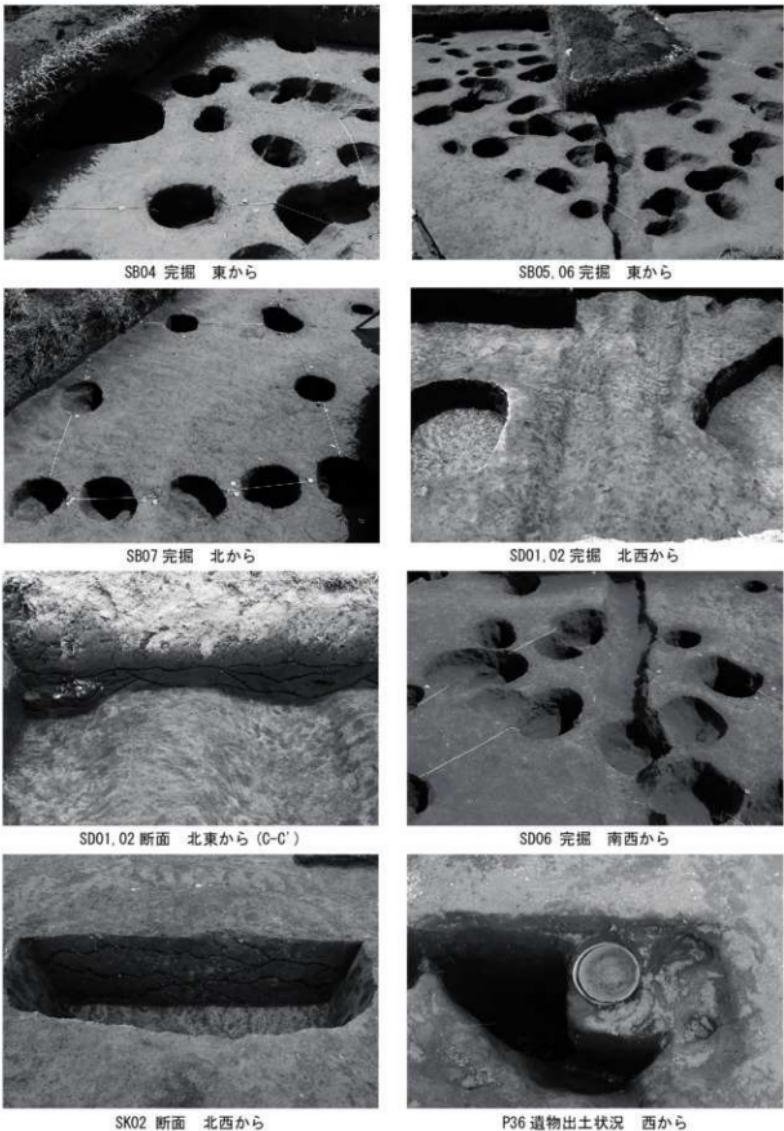


SI06 遺物出土状況・完掘 南から

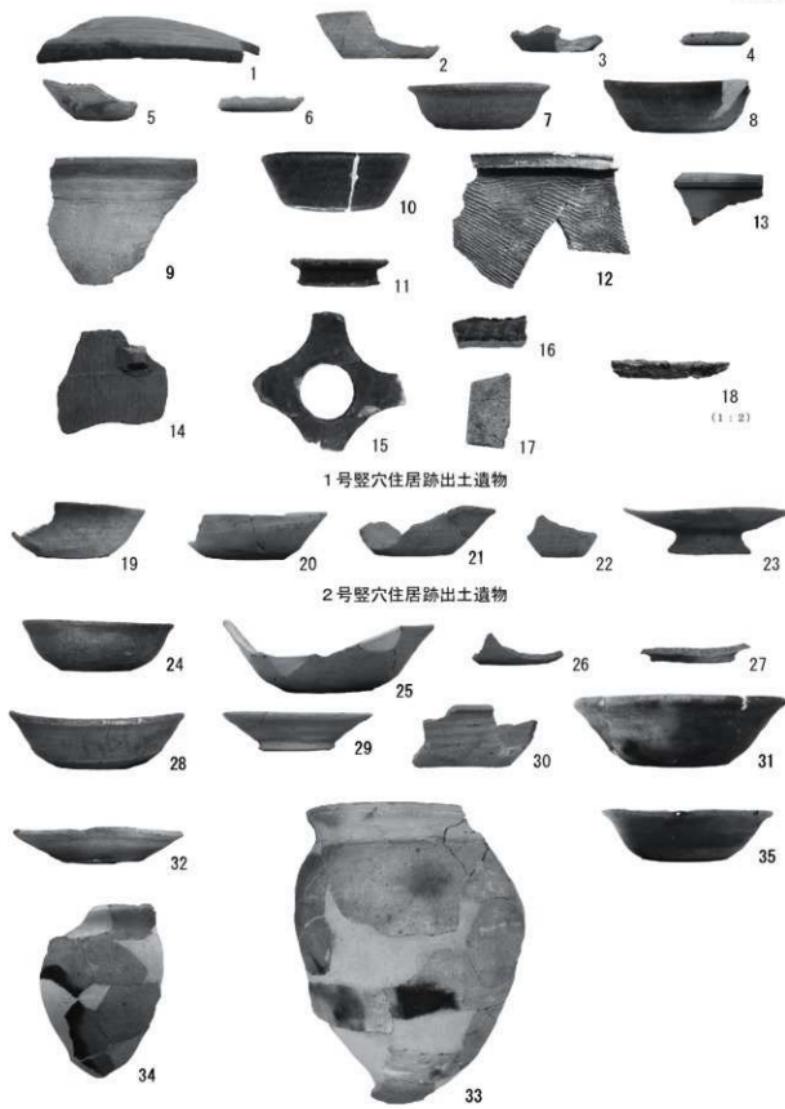


SB01, 02, 03 完掘 北から

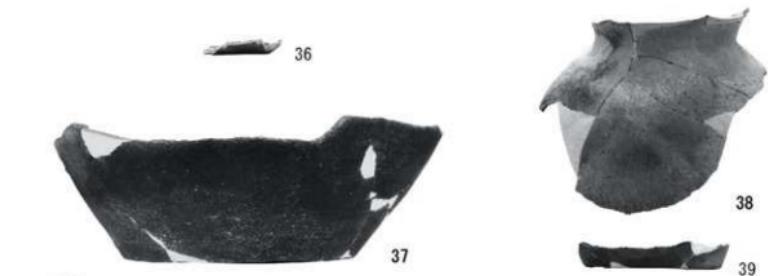
図版 4



圖版5



図版6



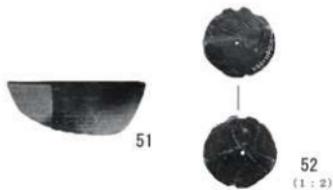
3号竪穴住居跡出土遺物



4号竪穴住居跡出土遺物



5号竪穴住居跡出土遺物



6号竪穴住居跡出土遺物

図版 7



掘立柱建物跡出土遺物



6号溝出土遺物



土坑出土遺物



ピット出土遺物



遺構外出土遺物



出土貝類 (1 : 2)

報告書抄録

ふりがな	ちばしかいがらばたけいせき
書名	千葉市貝殻畠遺跡
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集機関	株式会社ノガミ
編集機関所在地	〒286-0045 千葉県成田市並木町221番地 TEL:0476-24-3218
発行機関	千葉市教育委員会
発行機関所在地	〒260-8730 千葉市中央区問屋町1-35 TEL:043-245-5962
編著者名	松田光太郎（千葉市埋蔵文化財調査センター）・高尾将矢（株式会社ノガミ）
発行年月日	西暦2018年12月15日

千葉市貝殻畑遺跡

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

2018(平成30)年12月15日

編集 株式会社 ノガミ
千葉県成田市並木町221番地

発行 千葉市教育委員会
千葉市中央区問屋町1-35

印刷 株式会社 ライフ
千葉県成田市東和田595